

IKEDAKEBUNKO EZUTEN

 岡山大学創立60周年記念事業

池田家文庫絵図展

岡山藩の教育



岡山大学創立60周年記念事業

企画展 池田家文庫絵図展

「岡山藩の教育」

主催 岡山市デジタルミュージアム 岡山大学附属図書館

後援 岡山県教育委員会 岡山市教育委員会

会期 2009年9月29日(火)～10月18日(日)

凡例

- 1 本図録は、岡山大学附属図書館と岡山市デジタルミュージアムが平成21年9月29日(火)から10月18日(日)まで開催する『 - 岡山大学創立 60 周年記念事業 - 企画展 池田家文庫絵図展「岡山藩の教育」』の図録である。
- 2 展示番号と本書の図版番号、展示資料目録に付した番号は一致する。また表記は図版番号、資料名、池田家文庫整理番号、員数、年代、法量(cm)の順に記した。
- 3 本書に掲載した展示資料の写真は、岡山大学附属図書館が所蔵する絵図デジタル画像及び岡山市デジタルミュージアムが撮影した画像である。ただし他機関から提供を受けた写真については個別に提供者名を記してある。
- 4 本書の総説・展示資料解説は、岡山大学大学院社会文化科学研究科 教授 倉地克直が執筆した。編集は岡山大学附属図書館と岡山市デジタルミュージアムで行った。

関連行事

オープニングトーク

日時 2009年9月29日(火) 午前10時~10時40分
場所 岡山市デジタルミュージアム 4階企画展示室
講師 岡山大学大学院社会文化科学研究科
教授 倉地 克直 氏

記念講演会

「儒学教育と武士の人間形成」
日時 2009年10月3日(土) 14時~16時
場所 岡山市デジタルミュージアム 4階講義室
講師 京都大学大学院教育学研究科
教授 辻本 雅史 氏

同時開催

中国四国地区国立大学図書館貴重資料等共同展示
(参加大学: 島根大学・広島大学・香川大学・鳴門教育大学)



平成20年(2008)の岡山大学津島キャンパス

ごあいさつ

今年度も岡山市デジタルミュージアムと岡山大学附属図書館は共同で企画展池田家文庫絵図展「岡山藩の教育」を開催することができました。本展覧会は岡山大学と岡山市の文化事業協力協定に基づいた事業であり、本年で5回目の開催となります。

この展覧会は、岡山大学附属図書館の所蔵する、江戸時代の備前岡山藩池田家の藩政資料である池田家文庫を、広く地域社会の皆様へ公開し、親しんでもらおうという趣旨で企画するものです。中でも池田家文庫の特徴のひとつである地図資料、「絵図」を中心に展示をしています。

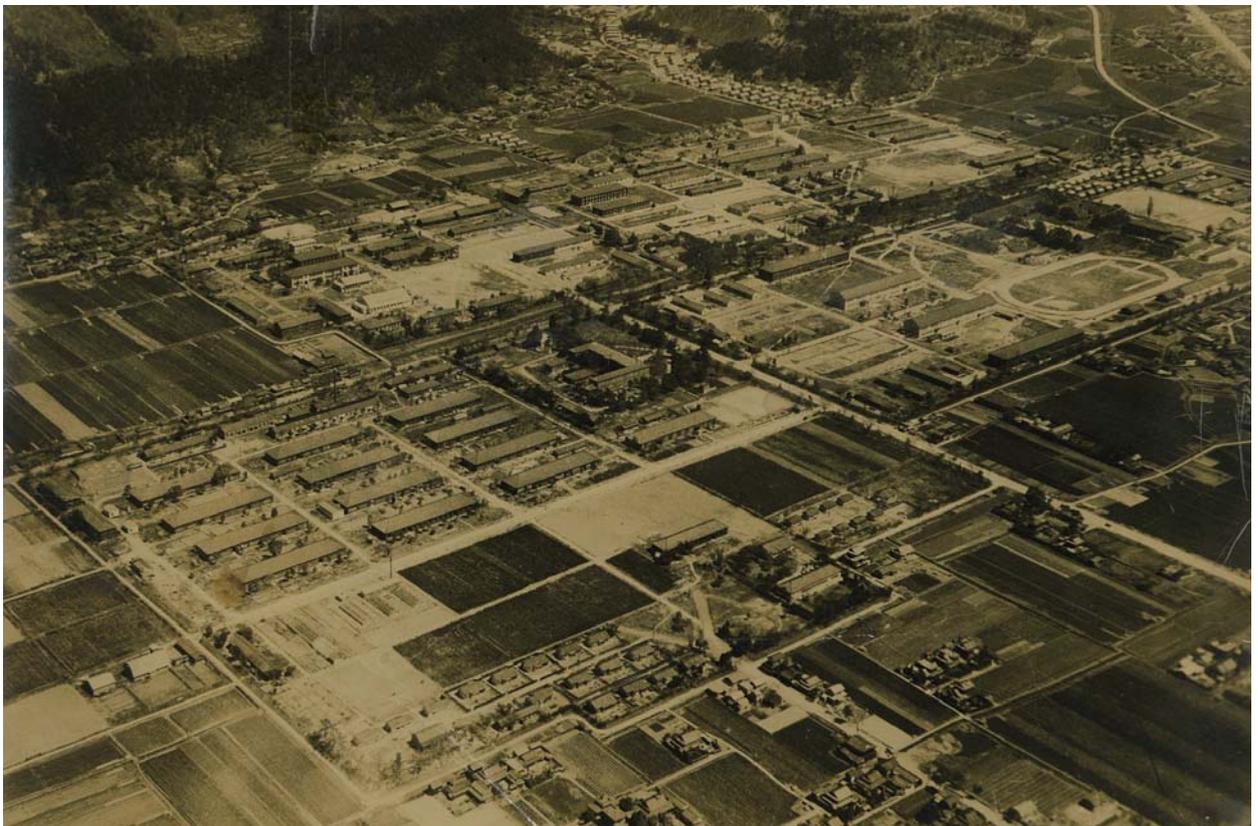
今回は、江戸時代の教育に注目し、岡山藩学校や閑谷学校に関する絵図・文書を公開しています。また今年度は岡山大学創立60周年でもありますので、岡山大学医学部の前身、岡山医学館時代の資料や岡山大学の黎明期の写真等も展示しております。

この池田家文庫絵図展で、皆様が岡山、ひいては日本の歴史に興味や関心を抱いていただき、池田家文庫を地域の共有の財産だと感じていただければ、大変嬉しく存じます。

平成21年9月29日

岡山市デジタルミュージアム
館長 森 隆 恭

岡山大学附属図書館
館長 倉地 克直



昭和29年(1954)の岡山大学

目次

総説 ————— 1

出展資料解説

「花園会」と熊沢蕃山 ————— 3

藩学校の成立 ————— 4

藩学校の教育と藩儒の活動 ——— 12

郡々手習所と閑谷学校 ——— 15

藩学校から岡山大学へ ————— 20

出展資料目録 ————— 23

池田家文庫絵図展記録 ————— 24

はじめに

本年(2009年)は、岡山大学が創立されて60周年にあたるが、同時に、寛文9年(1669)に岡山藩学校が創立されて340年にもあたっている。現在、岡山大学は「西日本の学都」をめざして努力を積み重ねているが、その源流のひとつが岡山藩学校であると言ってよいだろう。

岡山藩主の池田光政は、政治では組織を調えることよりも人作りが大切だと考えていた。そして、政治を担う者は、武士であろうと庶民であろうと、学文がなければならぬと考えた。もともと岡山という地域は、古来大陸との交流も盛んで、文化や学問を重んじる土地柄であった。そのうえに、光政の学文重視もあって、早くから家臣教育や庶民教化が盛んであった。

かえんかい くまざわばんざん 「花園会」と熊沢蕃山

従来は、寛永18年(1641)に岡山藩で設けられた「花島教場」が全国で最も早い藩校であるというのが定説であった。しかし最近の研究では、この「花島教場」なるものは岡山藩の公的教育機関ではなく、実際は、熊沢蕃山などを中心とした私的な学習結社であったと言われている。熊沢蕃山は初め岡山藩に仕えたが、一時藩を離れて中江藤樹に学んだ。そのため陽明学派とされることが多いが、儒学史では、陽明学と朱子学との中間的な立場と評価されている。当時は「心学」とよばれていた。

ふたたび岡山藩に仕えることになった蕃山は、朋輩のすすめで「心学」を講義するようになったが、これが藩主の池田光政に知られるところとなり、光政は以後蕃山の学問に傾倒することになる。慶安3年(1650)5月、蕃山は3,000石の物頭に取り立てられ、「花島之内にてさくまい(作廻、差配すること)」するよう申し付けられた。このころから「花島」に「心学」を学習する藩士や牢人が集まるようになった。蕃山が著したと言われる「花園会約」がその集会の規約と思われるから、その会は「花園会」とよばれたのだろう。

蕃山の学問は、武士としての修養とともに、「治者」(政治の担い手)としての実践を重視するものであった。光政は「花園会」で学んだ藩士や蕃山組下の家臣を民政の最前線に投入し、領民を直接指導する役割を与えた。しかし、民政を担うなかで、蕃山と他の「心学」者とのあいだで「治」のあり方をめぐる意見の対立が明らかになり、明暦3年(1657)1月に蕃山が隠退すると、しばらくして「花園会」も解体した。

藩学校の設立

民政の「改革」をすすめるなかで光政は、寛文6年(1666)に神社・寺院の淘汰やキリシタン神職請(キリスト教徒ではないことを寺院ではなく神職が保証する制度)といった特異な宗教政策を強行する。そして、その担い手となっていく家臣や村役人の養成を目指して、一連の教育政策を実施した。その1つが藩学校の設立である。光政は数年前から学校取立の望みを持っていたのだが、この機にその実現を図ったのである。同年10月、光政は泉八右衛門と津田重二郎に仮学校の取立を命じ、11月28日開校式を行った。最初の子は17人、いずれも「心学」を信奉する家臣の子弟であった。

当初は「身内」から小子を集めて急いで発足した学校であったが、神職請の推進や光政の度重なる督励などにより、小子の数が急増する。そのため、仮学校では手狭となり、中山下・三之外曲輪の円乗院跡に新学校が建設されることになった。あわせて、学校運営の基盤となる学校領として2,000石が設定された。

新学校の開校式は、寛文9年(1669)7月25日に行われた。学校の精神的中枢となる中室の龕中には、中江藤樹真筆の「至聖文宣王」の書軸が掲げられ、熊沢蕃山が式を主催した。式の後、朱子学者の三宅可三(道乙)が『孝経』を講じた。この年の小子数は141人になった。

ぐんぐんてならいじょ しずたにがっこう 郡々手習所と閑谷学校

家臣子弟の教育と並行して、民政の末端を担う村役人層の教育も取り組まれた。寛文7年(1667)に領内各郡に1人ずつ「講釈師」が置かれることとなり、さらにこの師匠を中心に郡々手習所が設けられた。手習所は初めは各郡1か所程度であったが、寛文11年(1671)に急激に拡大され、全領で123か所を数えることになった。手習所に通った小子の数は2,258人、1村平均にして5人ほどであった。

手習所を提案した津田重二郎によれば、その内容は、次のようであった。①教育は「手習算用」を基本として、希望者には「文字読」も教える。②年に1、2回は村役人や上層農民を集めて「講釈」を行う。③師匠は、庄屋や上層農民が務める。講釈師は学校から遣わす。④庄屋・村役人の子弟は成人すれば「公用」を務める者なので、望まなくても出すこと。余裕のある家の子弟は、月15日は通わせる。⑤運営費用は当面は藩から支給するが、後には小子を通わせる親が負担するようにすべきである。

庶民の教育機関として全国的に有名な閑谷学校も、もとは郡々手習所の1つである「木谷村手習所」

が前身であった。この手習所の寛文11年(1671)頃
の状況は、師匠1人、小子は16人で、近隣の10か村
から集まっていた。しかし、これでは他の手習所と大
差はなく、光政は不満であった。そのため、津田にこ
れを「閑谷学問所」として整備するよう指示した。
津田は閑谷に在宅して整備にあたり、延宝元年
(1673)には講堂が、翌2年には聖堂ができあがった。
また同年には木谷村が残らず学問所領とされ、校則
ともいふべき「壁書」も定められた。他方、延宝元年・
2年と岡山藩は洪水・飢饉におそわれ、手習所の維
持は困難となった。光政を継いだ綱政のもとで延宝
3年(1675)にはすべての郡々手習所が廃止され、そ
の典籍・器具類は閑谷に移管され、閑谷学問所だけ
が庶民教育機関として残されることになった。

藩学校の教育と藩儒の活動

綱政の時代になると藩財政の窮乏の影響もあつ
て藩学校の活動は衰微したが、藩儒たちの努力によ
って存亡の境を乗り越えた。ついで継政・治政の
時代には藩主の督励によって藩学校は隆盛に向か
う。その結果、各地から学校への参観と問い合わせ
があいついだ。広島藩や彦根藩からの問い合わせに
対する回答によれば、宝暦年間(1751～64)の状況
は次のようであった。

①学校の規模は東西63間(113m)・南北150間
(270m)、500石に減少していた学校領も1,000石に
増加した。②学校職員は、惣奉行3人、奉行2人、儒
者3人、下役人7人、礼師・書師・読書師20数人。
③家中子弟は8歳になると入学を許され20歳で退
校した。毎年の入学者は10数人、入学者の平均年齢
は10.6歳、8割が19歳まで就学した。④毎月朔日
の朝に朱子が定めた「白鹿洞学規」を輪読、1・2・4・
6・7・9の日に午前8時から12時まで読書・習字・
習礼・武芸を行う。午後4時から6時までは小学句読・
五経集註・近思録などの輪講、3・8の日には15歳
以上を対象とした四書集註の輪講が行われた。⑤月
に12回講堂もしくは食堂において四書五経の講釈
が行われ、家中士・陪臣・一般庶民が聴聞した。⑥
教授内容は朱子学を正学とし、徂徠学・折衷学など
を排斥した。⑦皆勤および出席良好の者の表彰が毎
年行われた。⑧春秋2回の積業(孔子の徳を称えて
行う儀式)が行われ、2月は藩学校で8月は閑谷で
行われた。

藩儒たちの主な職務は、藩学校での講釈・後園な
どでの藩主への進講・藩学校での講習活動の管理
であったが、他に藩の学術文化に関わる御用を勤め
ることもあった。そのうち重要なものは、将軍の代
替わりごとに派遣された朝鮮通信使との筆談御用お
よび詩文贈答であった。学問文化の先進国である朝

鮮の使節と対等に遣り取りすることは、藩の名誉に
関わることであった。また、官撰の地誌である『備陽
国誌』や幕府の用命を受けた『産物帳』などの編纂
も、藩儒の勤めであった。

他方、閑谷学校も宝暦年間以降に、和気郡の上層
農民出身である有吉和介(蔵器)や武元立平(君立)
などの活躍により、隆盛に向かった。

藩学校から岡山大学へ

幕末維新期になると、藩の力を強化するために文
武の振興が図られるようになる。家臣からもそれを
求める建白書がしきりに出された。岡山藩では明治
元年(1868)に兵学館を設け、明治3年(1870)には
藩学校を和漢洋の3学科制に改組した。洋学科では
英学を中心とし、地理学や数学も教えた。廃藩置県
後は、普通学校と改称された。

江戸時代は主に医師の私塾で行われていた医学
教育も、明治時代になると官学として行われるよう
になり、岡山藩でも明治3年オランダ軍医ロイトル
を招いて医学館を東山に設けた。この医学館は廃藩
置県によって一旦は廃止されたが、医師生田安宅ら
の努力によって活動が維持され、明治6年(1873)に
は岡山県病院となり医学教育を兼ねた。ついで岡山
県医学校となると、西日本有数の医師養成機関とし
て評価されるようになり、明治21年(1888)には国
立に移管され、第三高等中学校・第三高等学校の医
学部を経て、明治34年(1901)に岡山医学専門学校
(のちに岡山医科大学)となった。また、明治33年
(1900)には第六高等学校が岡山市に設立された。

第2次世界大戦後の昭和24年(1949)、「国立学校
設置法」にもとづき、旧制の岡山医科大学、第六高等
学校、岡山師範学校、岡山青年師範学校、岡山農業専
門学校の5つを母体に、新制岡山大学が設立され
た。当初は5学部で出発した岡山大学も、いまでは
11学部を擁する総合大学として発展している。

〔参考文献〕

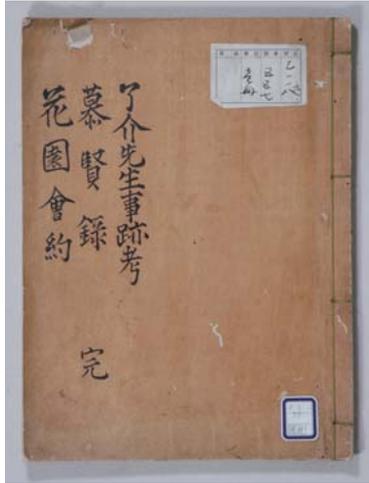
岡山県史編纂委員会編『岡山県史・近世I』岡山県、
1984年

倉地克直・ひろたまさき編『岡山県の教育史』思文閣
出版、1988年

柴田一「花鳥教場」と熊沢蕃山『歴史と風土』福武
書店、1983年

尾藤正英『日本封建思想史研究』青木書店、1961年

かえんかい くまざわばんざん
「花園会」と熊沢蕃山



熊沢蕃山 (1619-91)

寛永11年(1634)岡山藩に仕えたが、後に致仕(官職を退く)。中江藤樹に学び、正保2年(1645)に再び召し抱えられた。「花園会」の中心として儒学の普及に努め、藩主池田光政の厚い信任を受けて、藩政の改革や教育に活躍した。後に光政と不和になり、幕府にもうとまれて、活動を規制された。

かえんかいやく

1 花園会約 P1-16 1冊 26.6×19.4cm

「花園会」の規約。熊沢蕃山が草したという。毎朝儒学の経典を読み、食後には武芸に励むと定めている。「朋友の交わり」について細かく規定しており、同好の士の盟約という性格のものである。



いけだけりれきりやくき

2 池田家履歴略記 五・六 A8-24 1冊 27.4×20.0cm

「池田家履歴略記」は池田家歴代の重要事件を編年で記述したもの。著者は岡山藩士の斎藤一興。全26巻。寛永19年(1642)の「花畠」の項に、同所に「習字の徒」が集まったことが記され、あわせて「花園会約」が載せられている。



しゅうぎわしよ

3 集義和書 121-25 11冊

寛文12年(1672)刊 25.5×18.7cm

「集義和書」は蕃山思想を集大成したもので、初版本は1672年刊(11巻)、改訂2刷本は1676年刊(16巻)。

だいがくわくもん

4 大学或問 121-34 2冊

天明8年(1788)刊 26.4×18.2cm

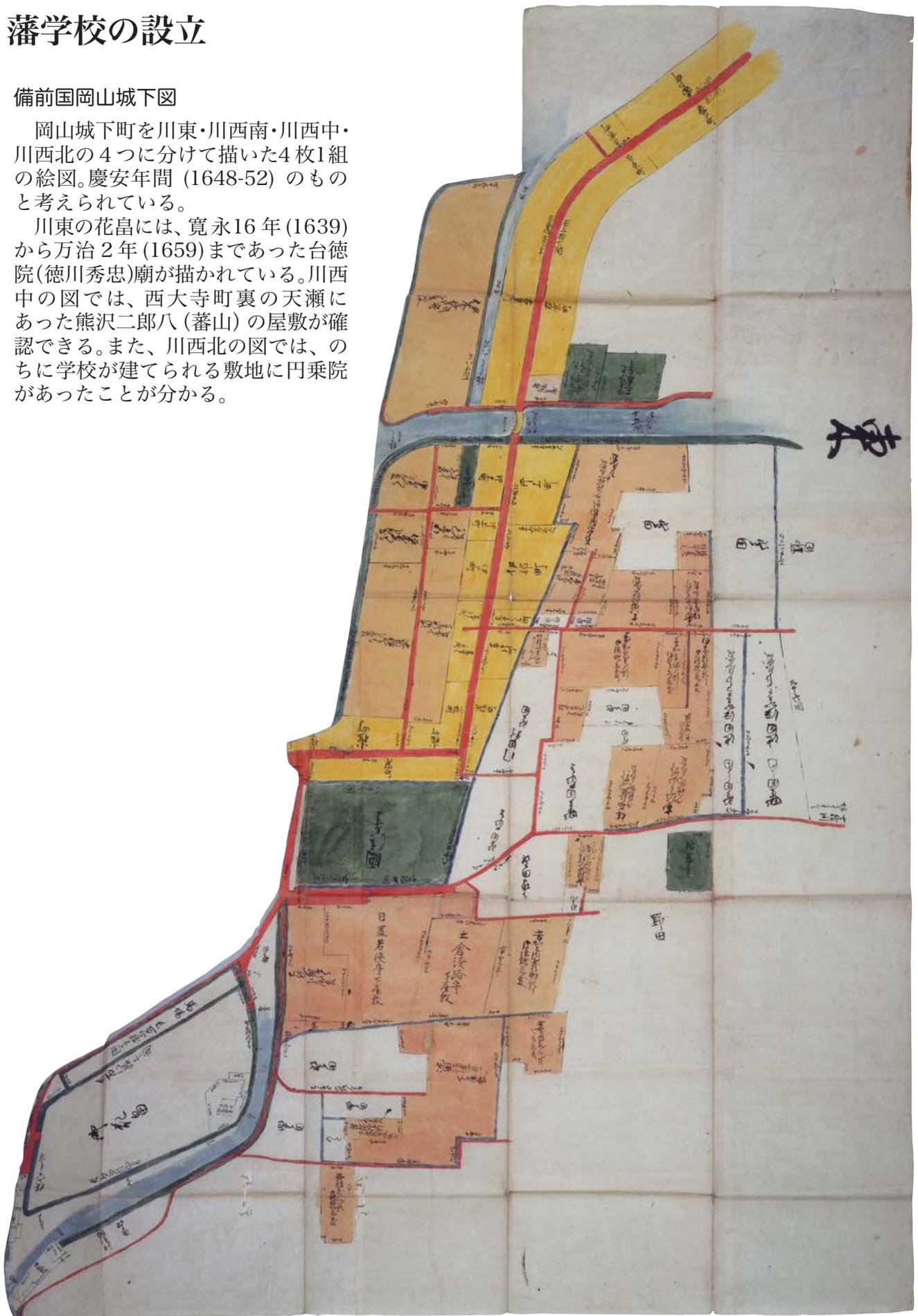
「大学或問」は蕃山の政治論。幕府や藩の政治に対する強い批判を含むため秘書として伝えられたが、1788年に刊行、翌年には発禁となった。

藩学校の設立

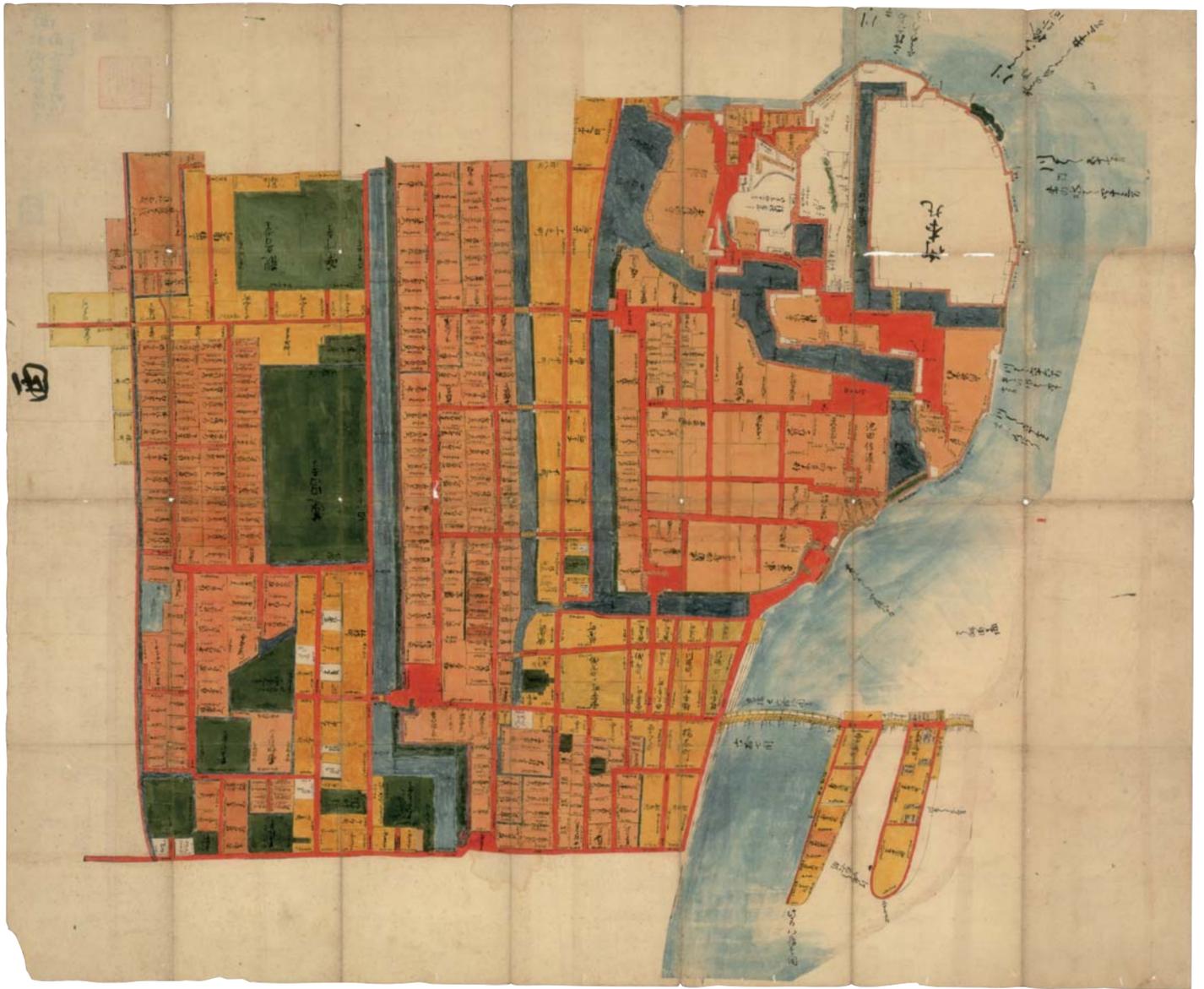
備前国岡山城下図

岡山城下町を川東・川西南・川西中・川西北の4つに分けて描いた4枚1組の絵図。慶安年間(1648-52)のものと考えられている。

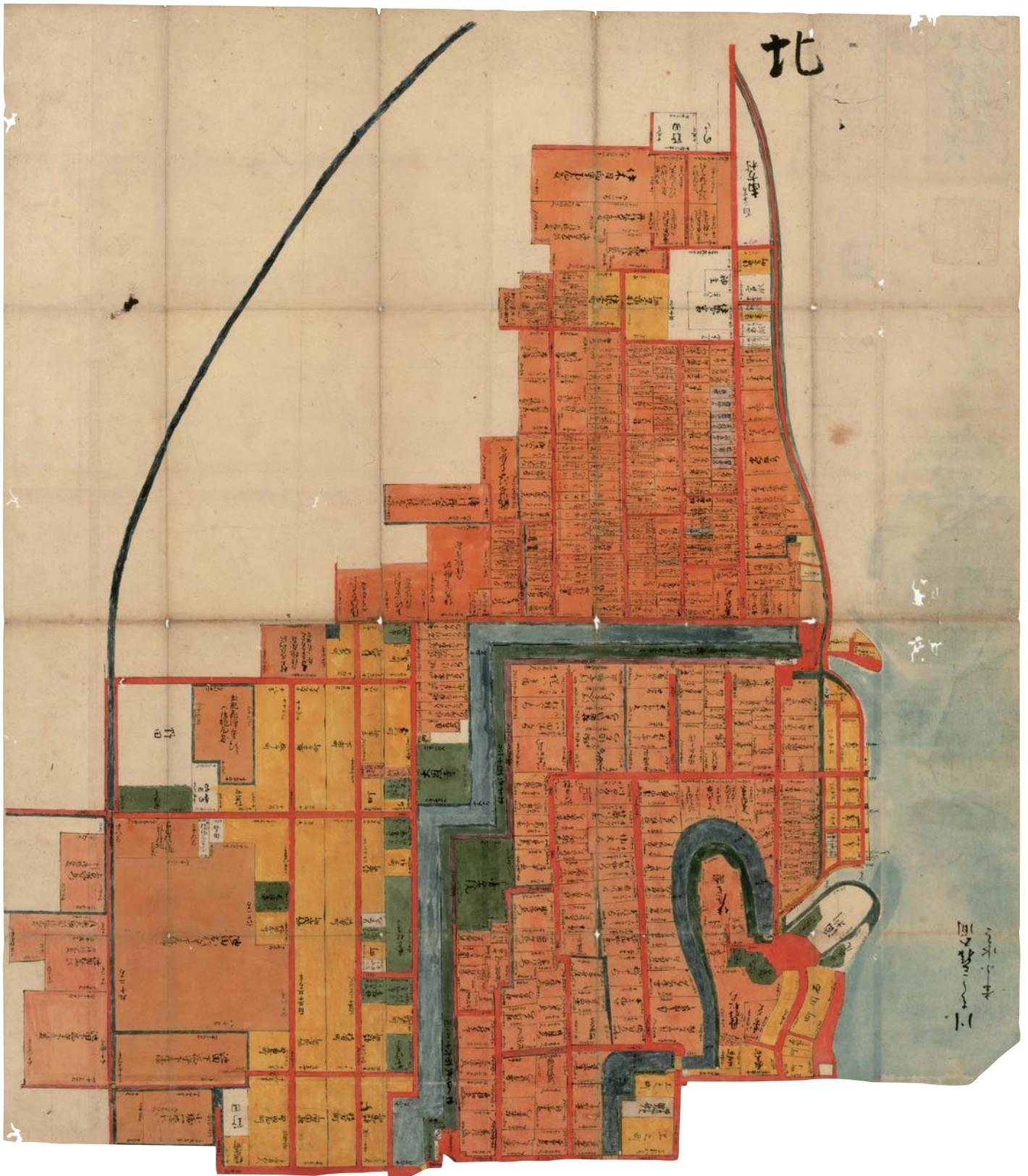
川東の花島には、寛永16年(1639)から万治2年(1659)まであった台徳院(徳川秀忠)廟が描かれている。川西中の図では、西大寺町裏の天瀬にあった熊沢二郎八(蕃山)の屋敷が確認できる。また、川西北の図では、のちに学校が建てられる敷地に円乗院があったことが分かる。



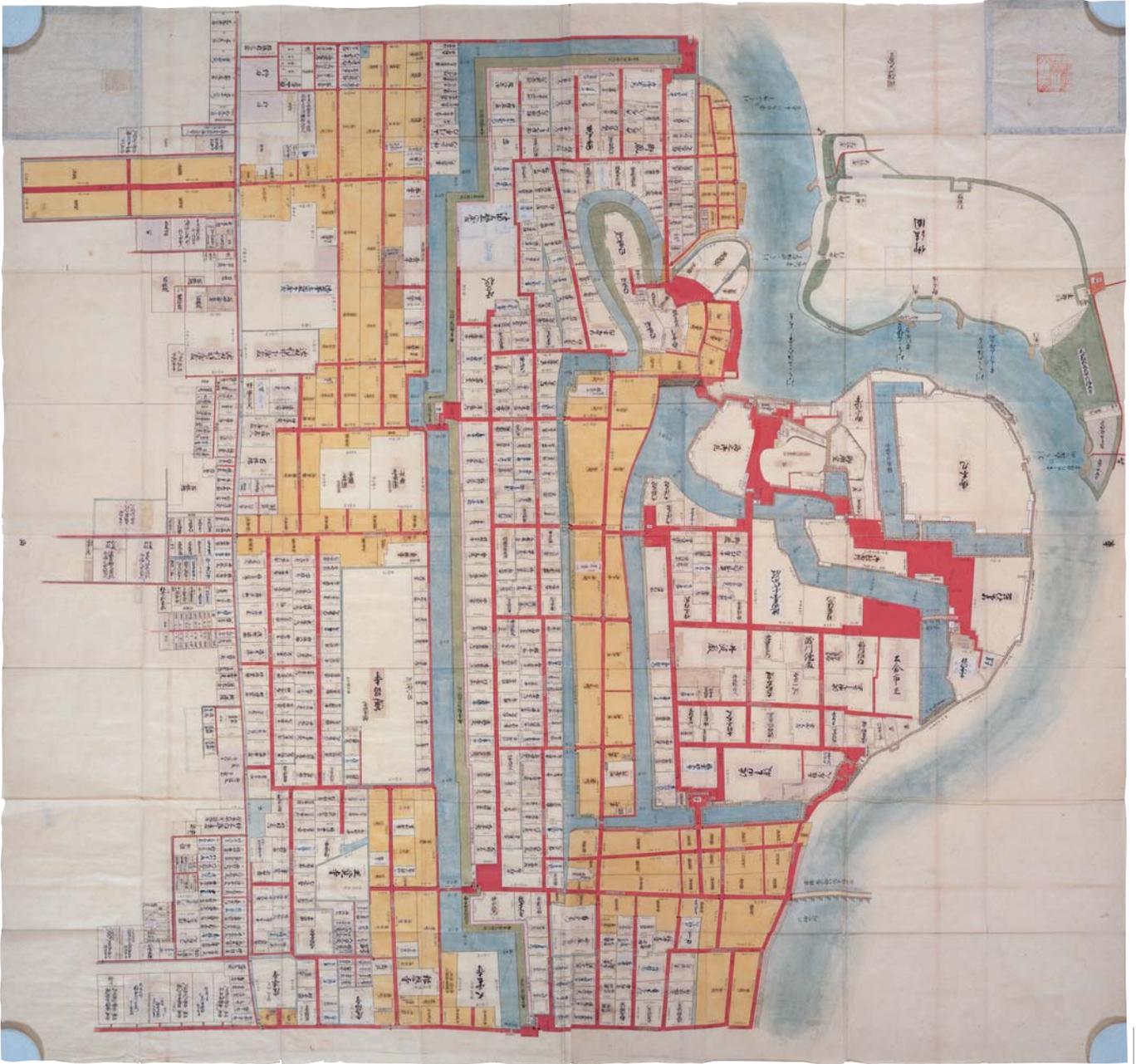
びぜんのかにおかやまじょうかす
5 備前国岡山城下図(川東) T6-8 1枚 94.7x65.0 cm



6 びぜんのかにおかやまじょうかぜ
備前国岡山城下図(川西中) T6-10 1枚 84.6×102.1 cm

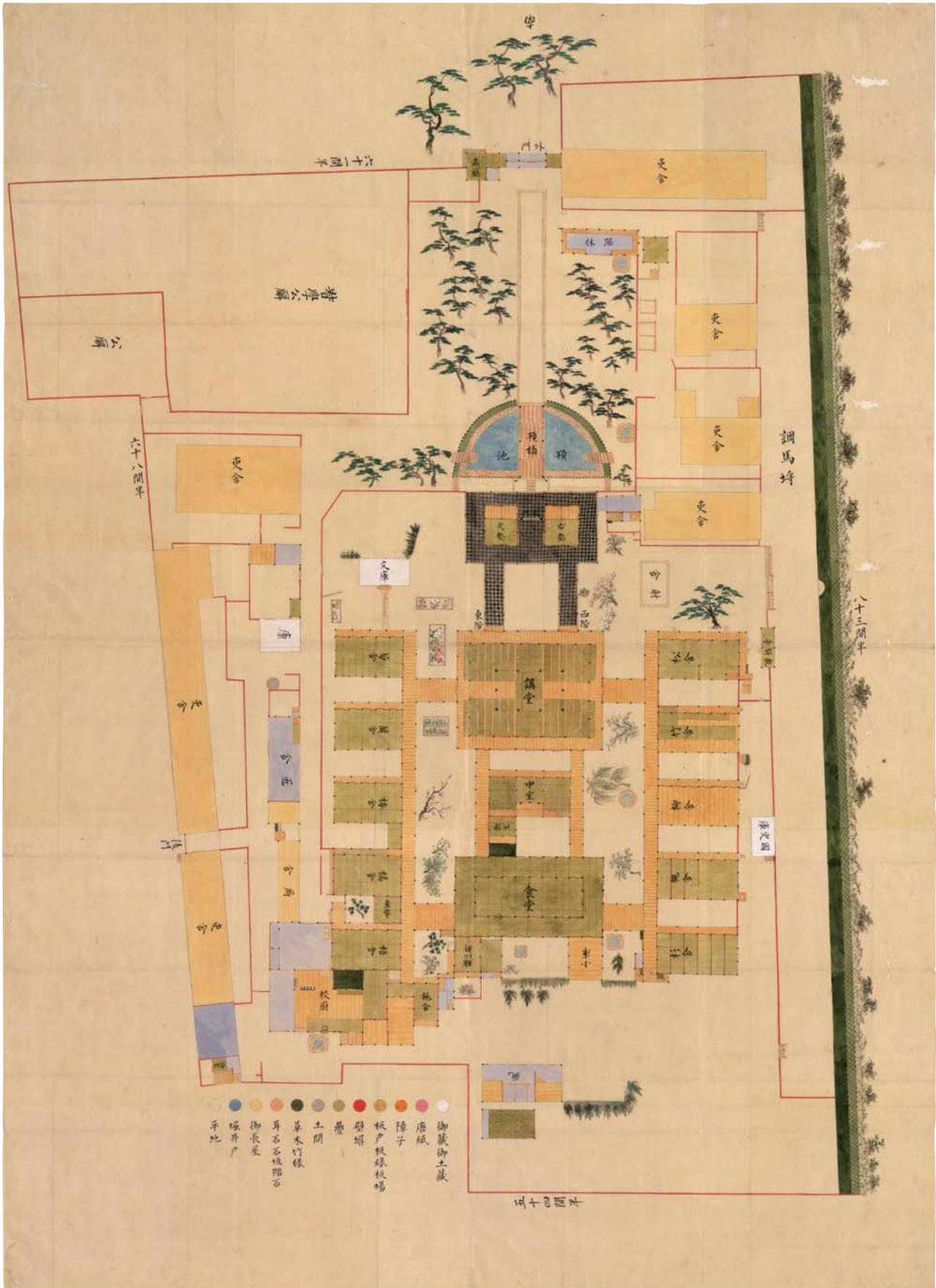


びぜんのくにおかやまじょうかず
7 備前国岡山城下図(川西北) T6-11 1枚 79.6×68.6cm



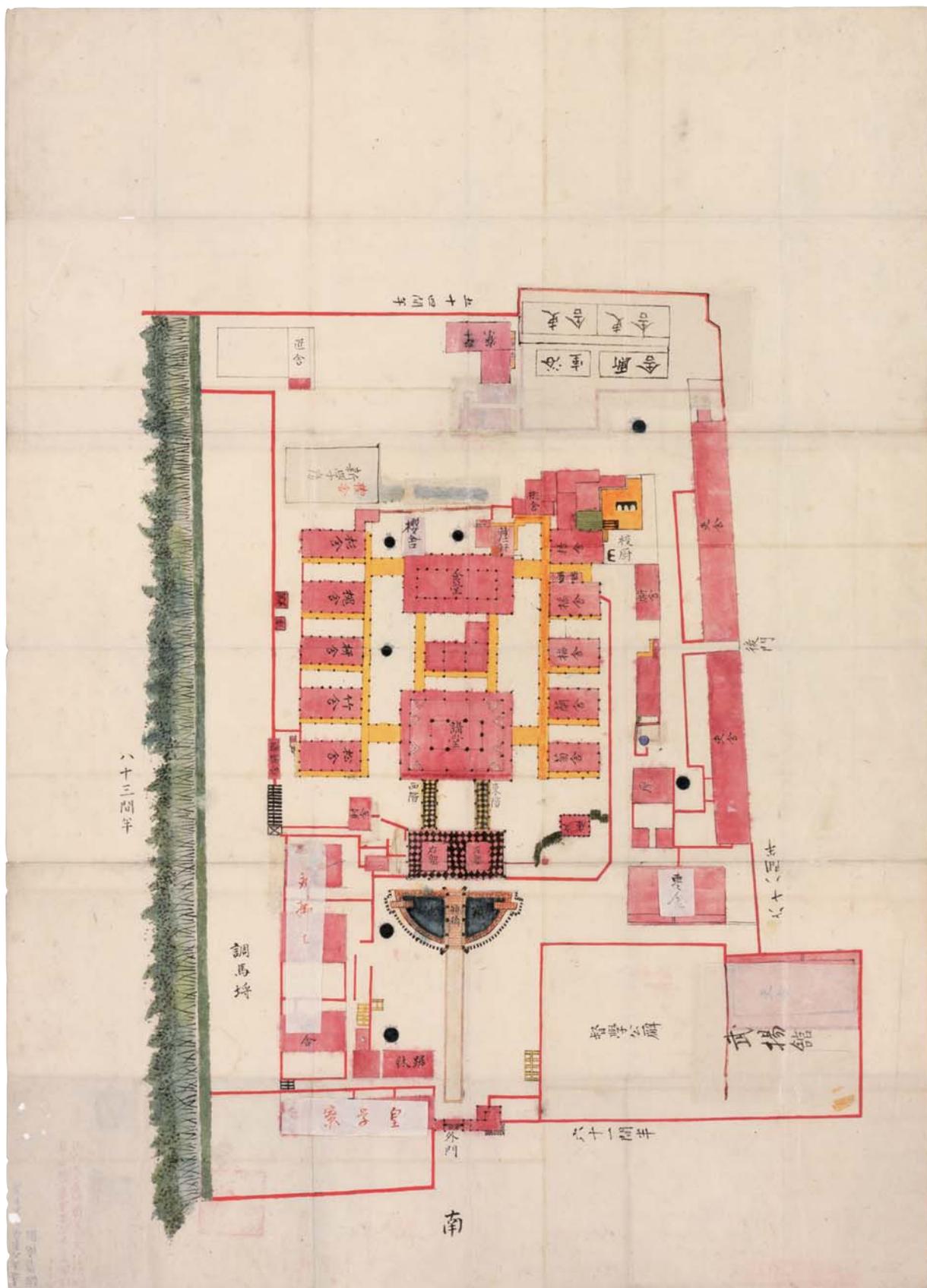
おかやまうちぐるわえず
8 岡山城下町を描いた4枚1組の絵図のうちの1枚 T6-20 1枚 131.8×137.4cm

岡山城下町を描いた4枚1組の絵図のうちの1枚。宝永年間(1704～11)に作成されたと考えられている。備前国岡山城下図(7)で円乗院があった場所が学校になっている。しかし、学校奉行の屋敷があった北部の敷地は削減されて池田主殿の屋敷地とされたことが、貼り紙で示されている。



がっこうおんえず
9 学校御絵図 T11-21 1枚 187.4×134.6cm

江戸時代後期の学校の様子を極彩色で描いた絵図。北部の敷地は削減された状態である。それでも東西61間半・南北83間半の広さがあった。門から洋池周辺は松林、学房には名称の由来となった草木も描かれている。



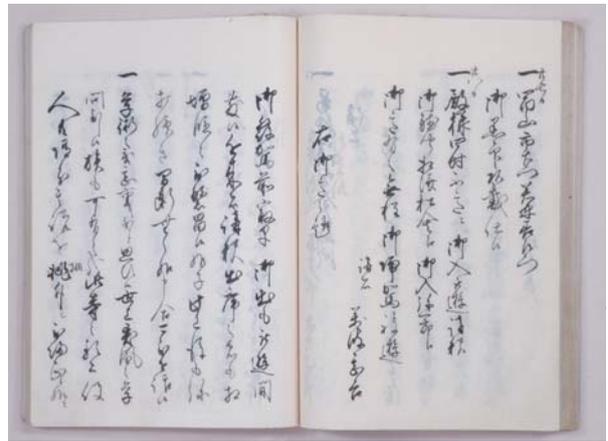
こくがくしんず
10 国学新図 T11-28 1枚 90.3×64.2 cm

明治維新前後の時期の学校の様子を示している。端裏には、朱筆で「明治十八年九月奥村重遠へ問合、則図中ノ付紙及朱書ハ同氏ノ書入ナリ」とある。学校が皇学・漢学・洋学の三科に分けられたのは明治3年(1870)であるから、「武揚館」「皇学寮」の貼紙は、その頃のことを示すか。9の学校御絵図とは天地が逆で北が上になっている。



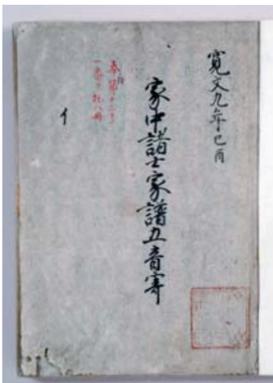
11 ^{びようこくがくきろく} 備陽国学記録 R1-1, 2 2冊 26.9×20.5 cm

藩学校や閑谷学校など学校奉行のもとでの岡山藩の教育活動を記録したもの。寛文6年から明治3



12 ^{びようこくがくきろく} 備陽国学記録 R1-27 1冊 26.9×19.9 cm

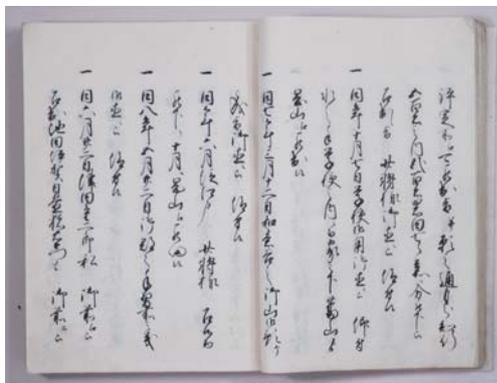
天明8年(1788)3月28日に藩主池田治政が「異学」を排し「正学」(朱子学)に帰することを指示した記事。



13 ^{かちゅうしよしかふごいんよせ} 家中諸士家譜五音寄 D3-3035 1冊 26.6×22.0 cm

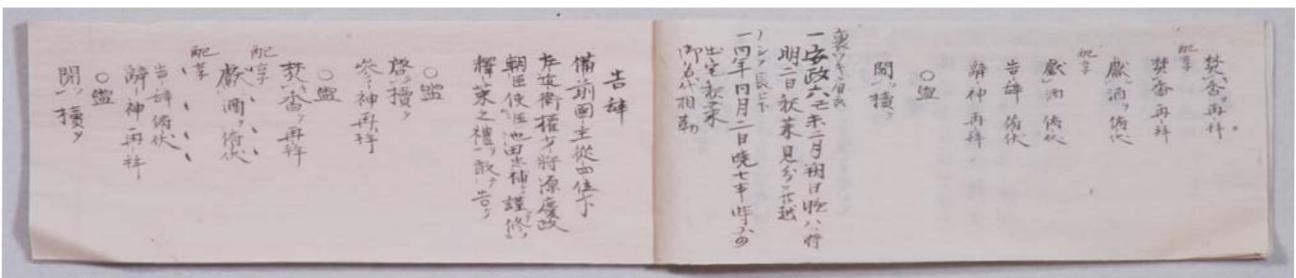
岡山藩では寛文9年(1669)に、家臣の履歴および先祖の勤功を書き上げるよう命じている。その書上を50音順に編纂した記録。「ア」を除く「イ」から「ワ」までの17冊が残されている。

示したのは、学校奉行・近習・高三百石「泉八右衛門」の項(D3-3035)。寛文6年(1666)10月7日に藩主池田光政から直接に「学校御用」を仰せ付けられている。



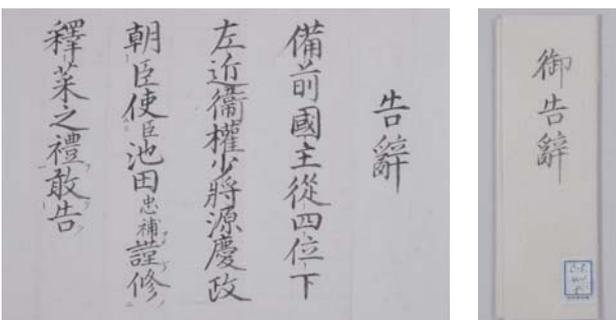
14 ^{がっこうせきさい} 学校积菜 C5-411 袋入9点

嘉永5年(1852)に藩主池田慶政の名代として池田忠補が积菜(孔子の徳を称えて行う儀式)に参加したときの一件史料。藩学校での积菜は毎年春2月に行われており、この年は2月4日に挙行された。

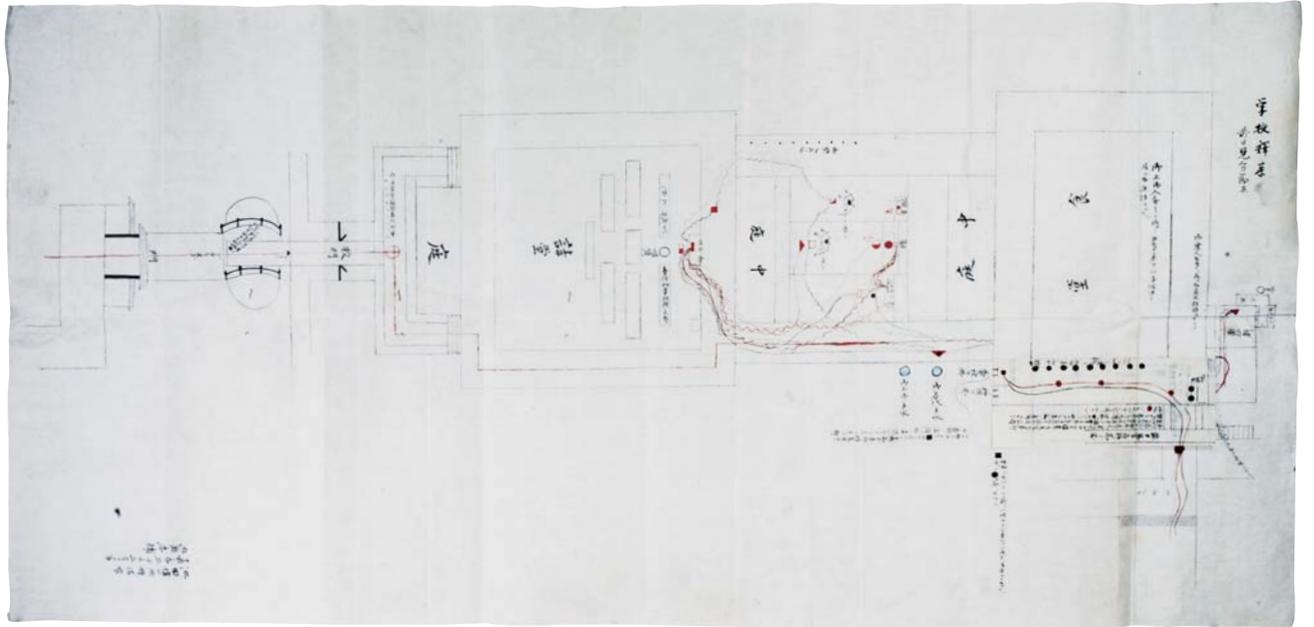


14 ^{がっこうせきさいおんみょうだいつとめ} 学校积菜御名代勤 C5-411-4 1冊 7.8×17.6 cm

积菜の式次第についての心覚え。安政6年(1859)の例が追記されている。同年は4月2日に挙行。

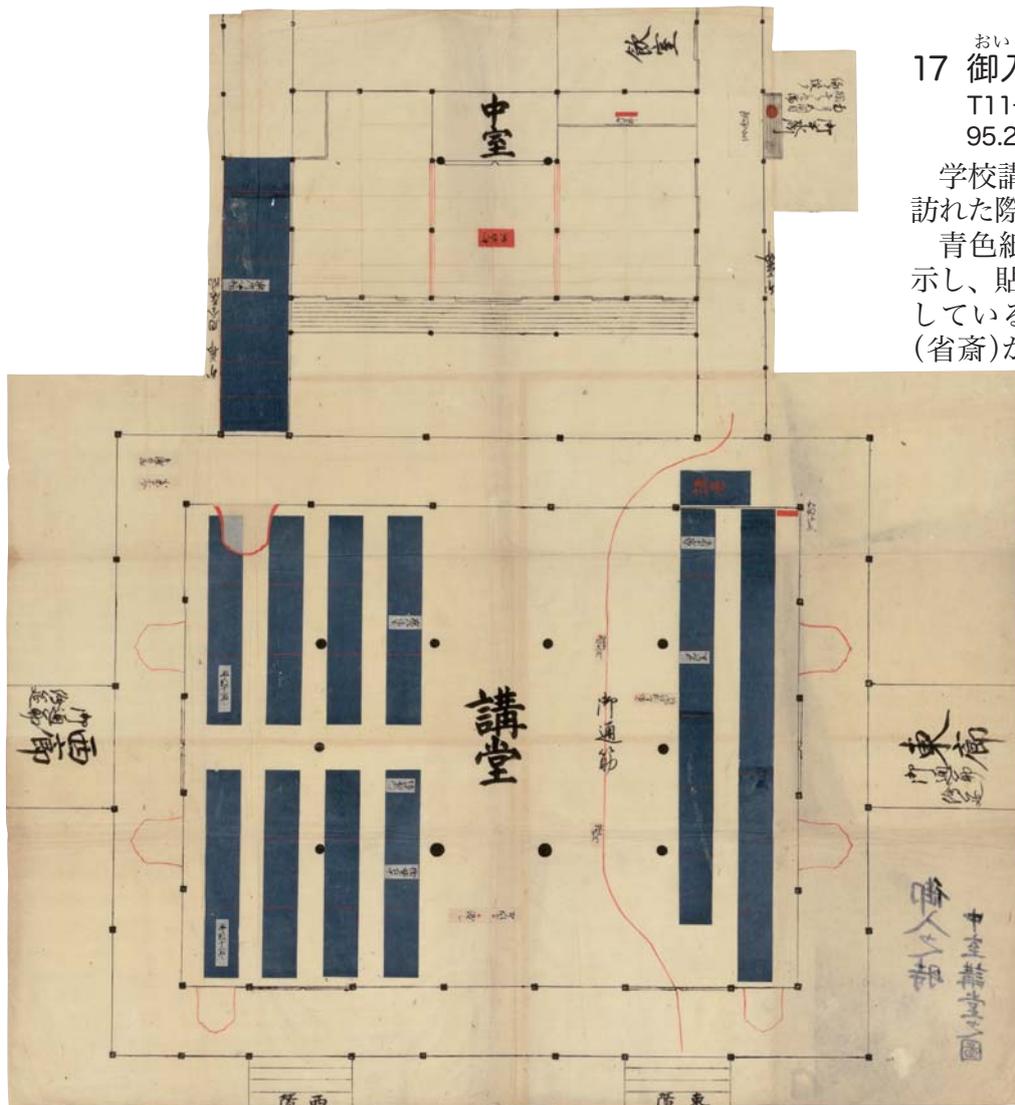


15 ^{こくじ} 告辞 C5-411-5 1通 18.0×35.3 cm
名代として积菜の開始を告げる告辞の原稿。



がっこうせきさいのず
16 学校積菜之図 C5-411-9 1枚 81.5×39.6cm

積菜当日の通路を図示したもの。池田信一が所持していたものを借り受けて、池田忠補が勤役に先立って写した。前日の見分の様子も書き加えられている。

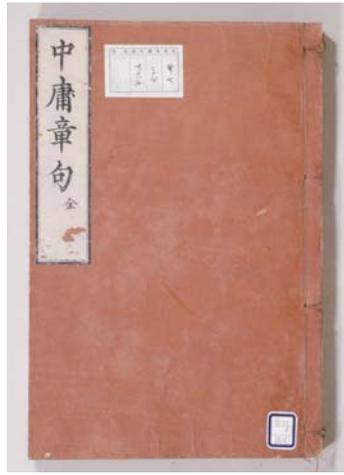


おいりのときちゆうしつこうどうのず
17 御入之時中室講堂之図
 T11-129-6 1枚
 95.2×87.2cm

学校講堂での講釈に藩主が訪れた際の通路を示した図。

青色紙は諸生などの座席を示し、貼り紙で名前など指示している。講師は和田弥兵衛(省齋)か。

藩学校の教育と藩儒の活動



18 孝経 ^{こうきょう}
 経53 3冊 274×19.4cm

儒学の古典である十三経のひとつ。孔子と弟子の曾子による問答の形式で「孝」について説いたもの。朱子学・陽明学を問わず重視されたもので、藩学校でも儀式などに講義されることがなわらわしであった。

19 四書章句集註 ^{ししよしょうくしつちゅう}
 経91 3冊 31.8×21.3cm

朱子学で最も重視された四書(大学・中庸・論語・孟子)の朱子による注釈書。朱子学学習の基本文献で、藩学校でも日を決めて講義されていた。また、毎年の優秀小生への賞品でもあった。展示したのは、『池田家文庫総目録』で「岡山藩刊本力」と推定されているもの。全26冊。

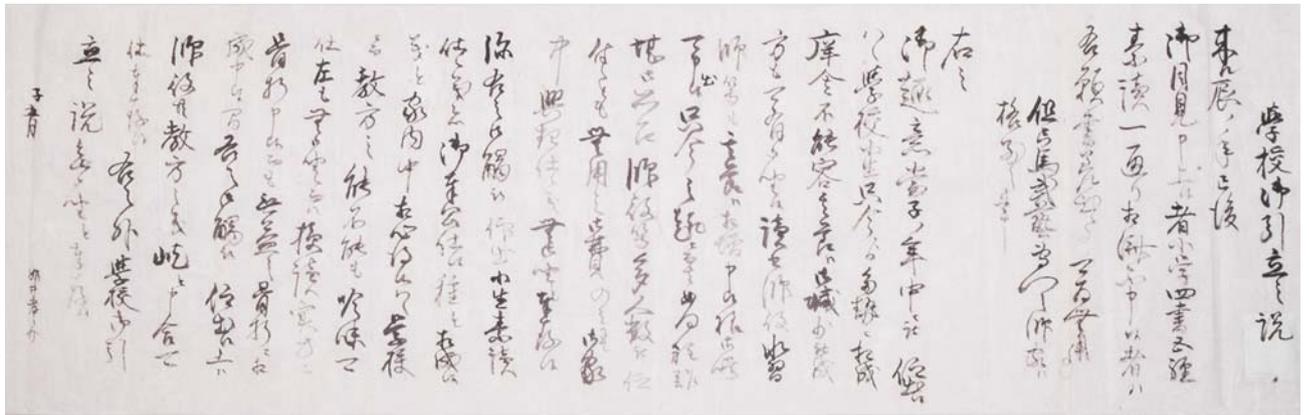
20 小學校 ^{しょうがく}
 子10 3冊 25.0×17.9cm

劉子澄が朱子の指導を受けて編纂した初学者向けの書物。修身道德の格言や忠臣孝子の事績などを集めている。藩学校でもよく使われた。訓点を施した佐藤一斎は江戸時代後期に林家の塾頭・昌平坂学問所教授として活躍した儒者。



21 学校武芸之師 ^{がっこうぶげいのし} R1-85 1通 17.1×122.8cm

学校における弓・太刀・槍・馬の師匠名を書き上げたもの。寛文7年(1667)の田路助之進(弓)から元禄5年(1692)の坂口勘左衛門(槍)まで16名。藩学校では儒学とともに武芸も重視されていたことが分かる。



がつこうおひきたてのせつ

22 学校御引立之説 S3-182-35 1通 元治元年(1864)5月 18.2×58.8cm

藩学校教授の姫井孝之介(粟谷)が提出した意見書。幕末期の文武振興策の1つとして、小学・四書・五経の素読を済ませた家臣の子弟のみが藩主への御目見を許されるという触書が出されることになった。これに際して、学校で教え方について申し合わせることの重要性を説いている。

23 祭礼節解

さいれいせつげ

125-6 2冊 寛文7年(1667)刊 27.2×19.4cm

儒教式の葬祭について解説した書物。三宅道乙(可三)は、京都出身の朱子学者。藩学校の教授として講義するかたわら、著述にも努めた。



24 備陽国志

びようこくし

217-10-13 3冊 元文4年(1739) 27.2×19.4cm

藩学校の教授たちは、講義のかたわらさまざまな藩の文筆御用を勤めた。この書は、岡山藩が元文2年(1737)12月に和田弥兵衛(省齋)らに命じて作成させた官撰の地誌。池田家文庫本は、13巻13冊。郡ごとに村里・山川・寺社・産物・人物・文物・名所・古城などを書き上げている。



25 備陽善人記

びようぜんじんき

L2-11-12 箱入2冊 27.6×19.4cm

岡山藩では承応3年(1654)以来孝行奇特者の褒賞を行っている。この書は、寛文6年(1666)までの褒賞例から61件を選んで編まれた。編者は藩儒の小原大丈軒で、藩主に提出されたものと思われる。京都の儒者である藤井懶齋が刊行した『本朝孝子伝』にも、本書から多くの事例が採集されている。その「今世」の部も同じ箱に入っている。



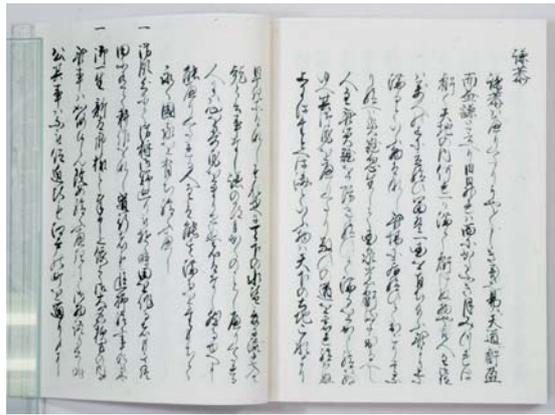
藩学校の教育と藩儒の活動



こんどうろくのじょうほうこうがき
26 近藤六之丞奉公書

D3-1100 1冊 274×20.6cm

近藤六之丞、名は篤、西涯と号す。宝暦元年(1751)年 29歳で学校御雇となり、「小生札割役」を仰せ付けられた。藩主治政に信任され、学校付中小姓を経て侍講を務めた。延享4年(1747)と宝暦14年(1764)の2度にわたって朝鮮通信使の接待にあたり、筆談御用を務めている。



びはんしゅうぎろく
27 備藩集義録

281-31 4冊 27.4×19.4cm

池田光政をはじめとした歴代藩主などの事績・言行を集めたもの。編者は、近藤篤。藩の記録を作成・管理する留方が学校内に置かれており、その資料を参照して編まれたと思われる。

そっしょうろく
28 率章録

P28-94 1冊 27.2×19.2cm

近藤篤が編纂した池田光政の言行録。「孝親」など26項目を立てて事績をあげている。藩主や嗣子への講話などにも利用されたと思われ、「有斐録」(大沢市大夫)や「仰止録」(早川助左衛門)とともに「名君」像を作り上げるものとなった。

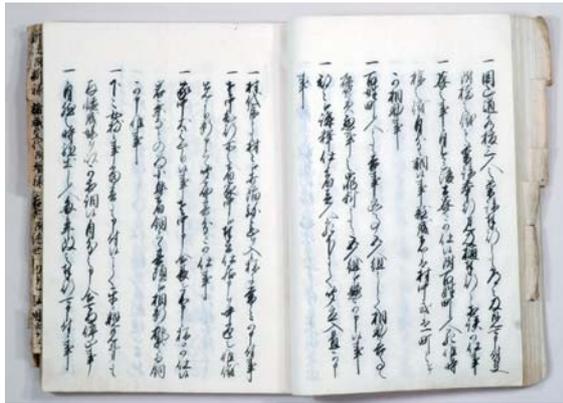
藩学校の教育と藩儒の活動



きふだ
29 木札 岡山市教育委員会所蔵 8点 19世紀前半 (画像提供 岡山市教育委員会)

岡山藩学校跡地(現岡山市立中央中学校)から発掘された木札。「古田源兵衛 十七」や「源太郎」などと書かれたものは、出欠の確認などに使われた名札か。ほかに荷物に付けられた付札のようなものもある。

郡々手習所と閑谷学校

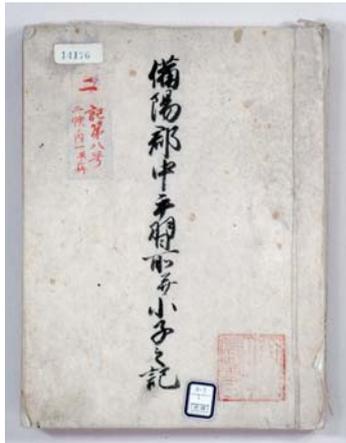


30 備陽国史類編

びようこくしるいへん
A1-46 1冊 寛文6年(1666) 27.6×20.4 cm

寛文6年(1666)8月16日から13日間にわたって藩政全般にわたる評議が行われ、その結果32か条が「大寄合ノ書付」として9月7日に発表された。その26条目に、郡々に1人ずつ「講釈師」を置くこととある。

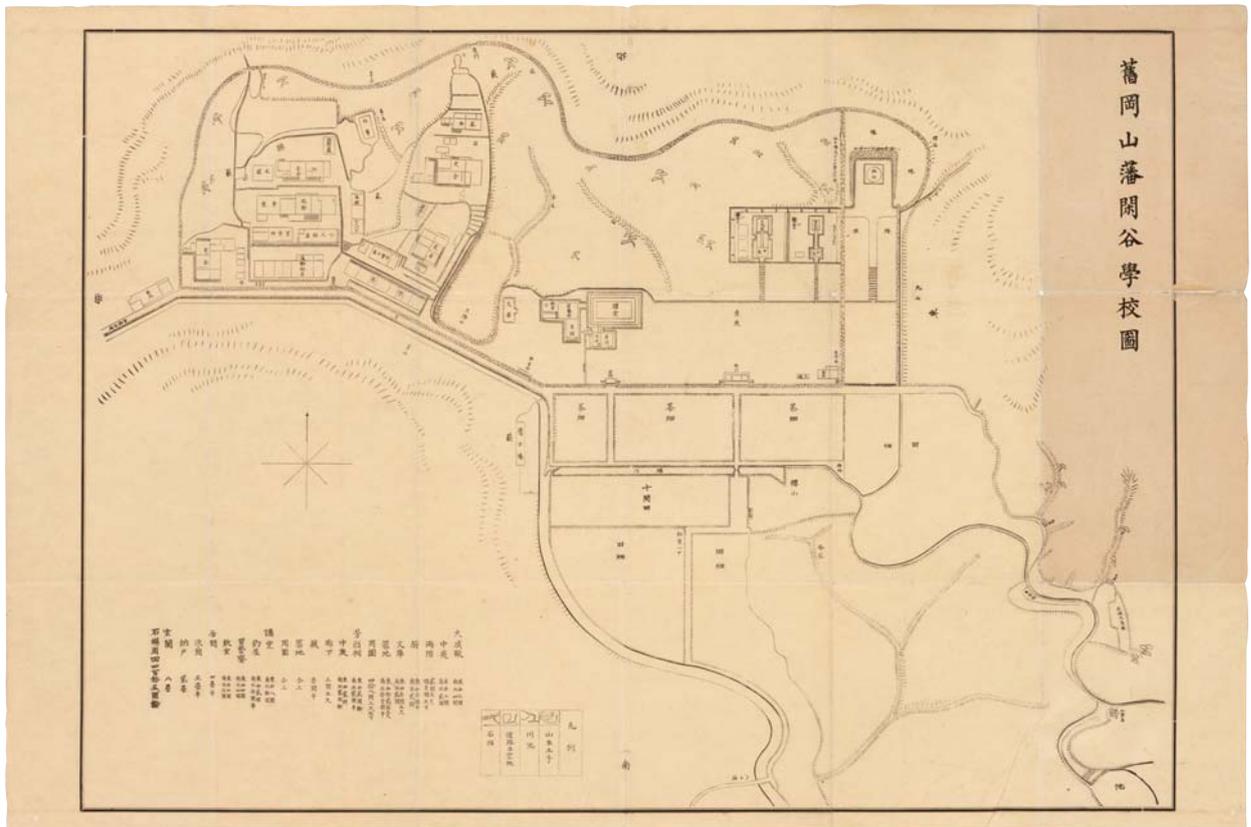
備陽国史類編は、承応3年(1654)7月から寛文12年(1672)6月までの藩政の重要事項を、項目別に編纂したもの。19冊(A1-34～52)がある。



31 備陽郡中手習所 ならびにしょうしのき 并小子之記

びようぐんちゅうてならいしよ
R3-1 1冊 寛文11年(1671)
27.9×20.2 cm

寛文11年(1671)に急激に拡大した郡々手習所の記録。各所ごとに、師匠名・小子名を書き上げている。巻末の付記の内容が異なる3冊が残されている。



32 旧岡山藩閑谷学校之図

きゅうおかやまはんしずたにかっこうのず

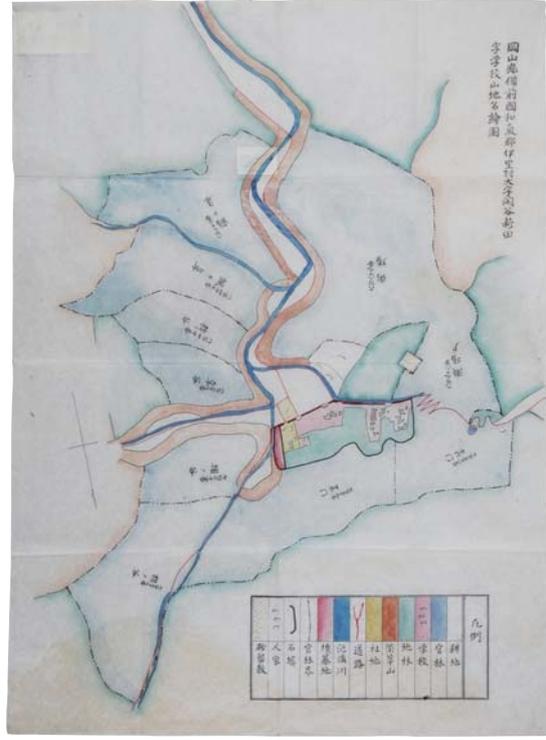
T11-29 1枚 明治 52.4×78.0 cm

明治期に作られたものだが、江戸時代後期の閑谷学校の様子を示している。火除山の西に学房・吏舎、教室などが建ち並んでいた。



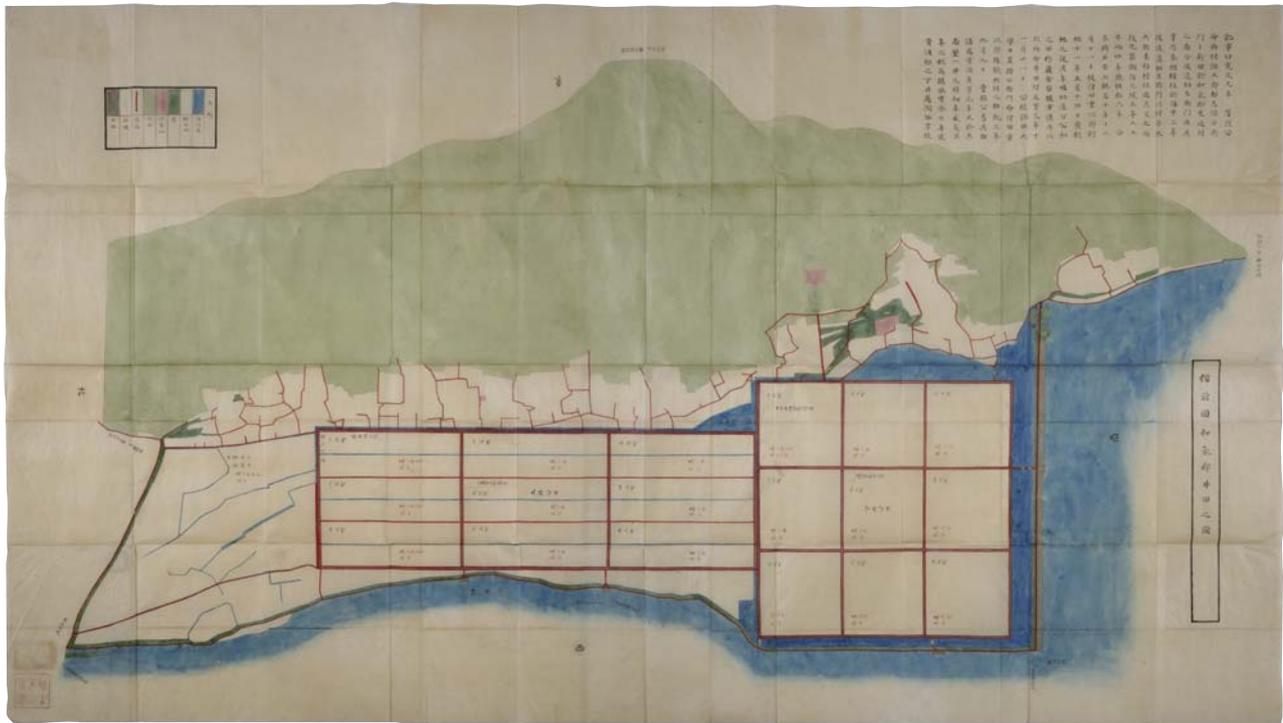
おかやまけんかびぜんのくにわけぐんしんずたにしんでんむらかんりん
33 岡山県下備前国和気郡閑谷新田村官林
 じつちとりしらべそくりようえず
 実地取調測量絵図 T2-70-2 1枚 135.6x116.8cm

明治期における閑谷学校周辺の官有林の実測図。民有林については、松山・雑木山・深草山・桜山に区別している。絵図の上では、5mmが1間なので、縮尺360分の1である。



おかやまけんかびぜんのくにわけぐんいりむらおおあざしんずたにしんでんあざがっこうやまちめいえず
34 岡山県備前国和気郡伊里村大字閑谷新田字学校山地名絵図 R2-44 1枚 55.4x40.0cm

閑谷学校周辺の山林は、学校での用材・薪などに用益するため、学校山に指定されていた。面積は140町歩余、明治期にはその大部分が官有林になっていた。34とは天地が逆である。



びぜんのくにわけぐんせいでのんず
35 備前国和気郡井田之図 T7-144 1枚 93.8x167.5cm

井田は、中国周時代の田制。耕地を井形に9等分し、中央の1区画を公田としてその収穫を公租として収めさせた。光政はこれにならって井田を設けることを津田永忠に命じ、和気郡友延村に寛文12年(1672)に完成した。これが上井で、さらに永忠は下井を元禄初年に完成、これを閑谷学校料に加えた。この図は明治期に井田村の様子を描いたもの。道路と水路が整然と引かれている様子が分かる。



参考資料 しずたにしんでんず 閑谷新田図 T2-71【複製展示】 1枚 441.4×277.8 cm

閑谷新田村の全体を絵画的に描いた図。奥まった深山幽谷に学校が営まれていることが実感できる。絵図の南端の伊里中村あたりを現在国道2号線が走っている。



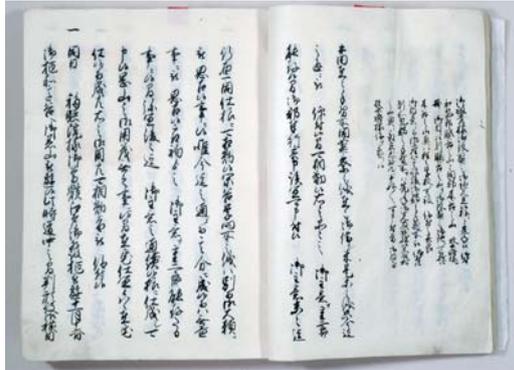
かんこうかいはつりやくき

36 閑校開発略記

R2-13 1冊 寛政7年(1795)
22.0×16.2cm

学校奉行長谷川庄大夫の問い合わせに対して、有吉覚右衛門が記したもの。覚右衛門は和氣郡吉田村奴久谷の農民出身で、長く閑谷御雇となっていた。当時は見届役。

開校の由来や閑谷新田村の経営などについて知ることができる。



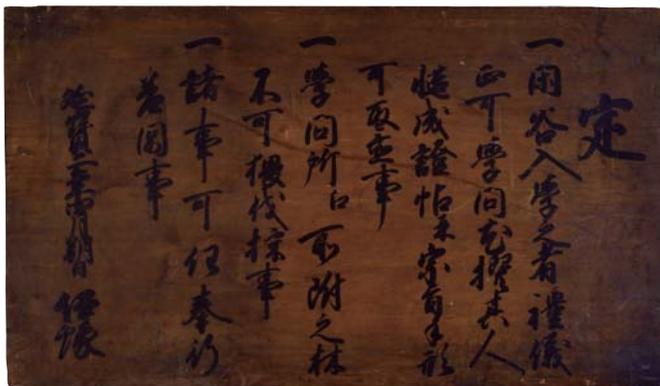
つだじゅうじろうほうこうがき

37 津田重二郎奉公書

D3-1631 1冊 27.6×20.6cm

津田重二郎(永忠)は、池田光政・綱政の2代に仕え、藩学校・閑谷学校・和意谷墓所の造営・運営などに携わった。

寛文12年(1672)10月28日には、閑谷造営に専念するよう、光政から直接に命じられている。



さだめ

38 定(壁書)

1点 延宝2年(1674)4月朔日 47.2×81.8cm
(画像提供 岡山県立博物館)

閑谷学校の講堂の完成にあわせて壁に掲げられた規則。元禄14年(1701)に完成した現在の講堂に掲げられているものの控え。入学者は礼儀正しく学問すべきことなどが定められている。

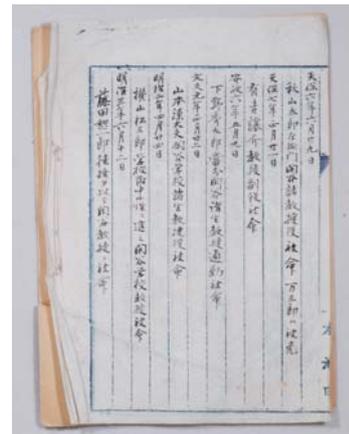


しずたにかくもんじりょうふたくかぎつけ

39 閑谷学問所料附託書付

R2-2 1通 延宝2年(1674)4月朔日 47.0×66.2cm

和氣郡木谷村 278 石 2 斗 5 升 8 合すべてを閑谷学問所料とすることを定めた文書。これにより木谷村の住民は福浦新田村に移され、学田の地は閑谷新田村と称されることになった。学田は周辺の農民が小作した。



しずたにかくこうきょうじゆせいめい

40 閑谷学校教授姓名

R2-16 1冊 23.4×16.4cm

文化3年(1806)9月6日に有吉行蔵が「教授役講堂講釈祭事掛」に命じられたときから、明治3年(1870)6月12日に藤田恕一郎が「閑谷教授」に任じられるまで。

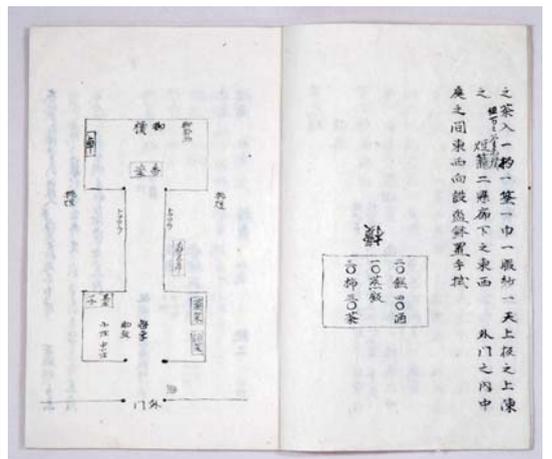
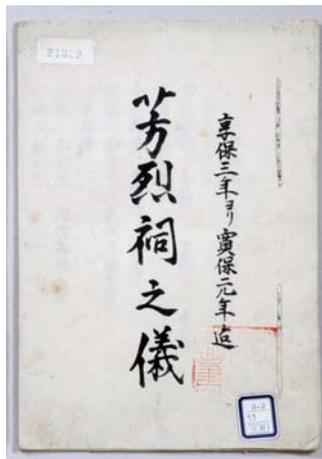
びようこくがくきろく
41 備陽国学記録

R1-28 1冊 天明9年(1789) 26.9×19.8cm
閑谷学校では近年何となく諸事ゆるみ、役人もバラバラになっているということから、風儀をただすよう命じた天明9年(1789)8月19日の「口達之覚」。詩文よりは四書・小学の講習に努め、村方の手本となることが肝要だと説いている。藩学校では「異学の禁」が叫ばれていた時期である。



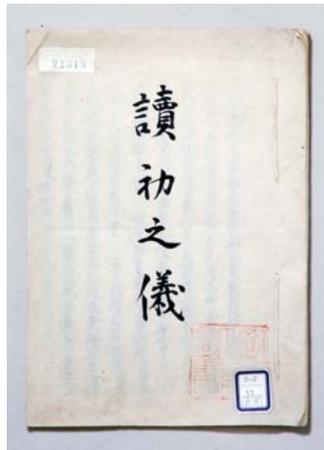
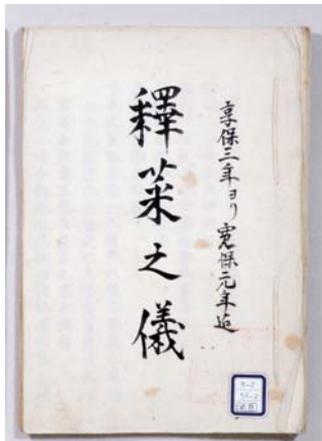
ほうれつしのぎ
42 芳烈祠之儀

R2-53・55 2冊 24.6×16.5cm
芳烈祠は池田光政を祀る廟で、貞享3年(1686)に完成した。毎年積菜の終わった8月21日か23日頃に祭事が行われた。この史料では、享保3年(1718)から寛保元年(1741)までの例が書き上げられている。



せきさいのぎ
43 積菜之儀

R2-56 2冊 24.0×16.1cm
閑谷学校の聖堂(大成殿)は延宝2年(1674)に完成、貞享元年(1684)に現在の瓦葺きに建て替えられた。ここで毎年秋8月に積菜が行われており、その儀式次第を記したものの。享保3年(1718)から寛保元年(1741)までの例が記されている。「附録」として寛政6年(1794)から文化元年(1804)までの出来事が追記されている。



がんとんのぎ
44 元旦之儀 R2-54 1冊 24.0×16.1cm

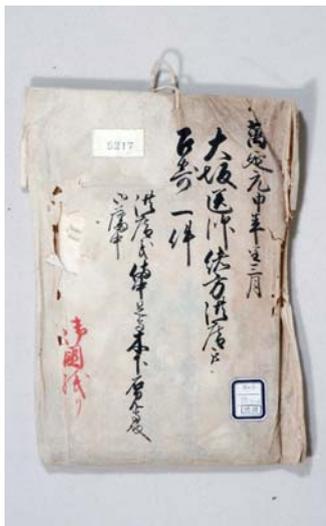
大成殿・芳烈祠での元旦の儀式を記したものの。享保4年(1719)と寛政4年(1792)の例が書き上げられている。年末28日に鏡餅を供え、新年5日に下げている。

とくしよのぎ
45 読初之儀 R2-57 1冊 24.0×16.1cm

読初之儀は年初の開講儀式で、毎年正月17日頃に行われた。諸生が参加して、大成殿で礼拝を行った後、講堂で大学の講釈が行われた。この史料では、享保18年(1833)から元文6年(1741)までの例が記されている。

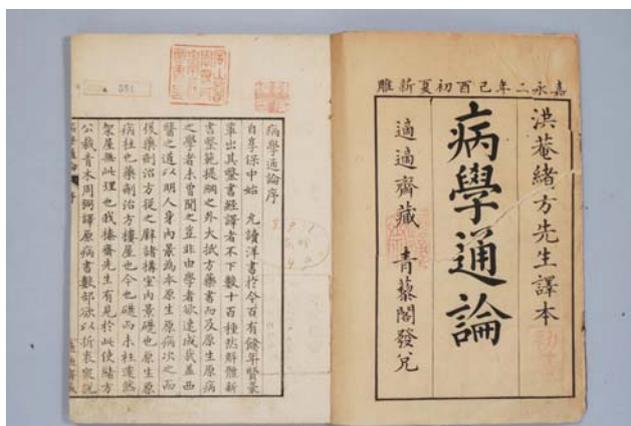
郡々手習所と閑谷学校

藩学校から岡山大学へ



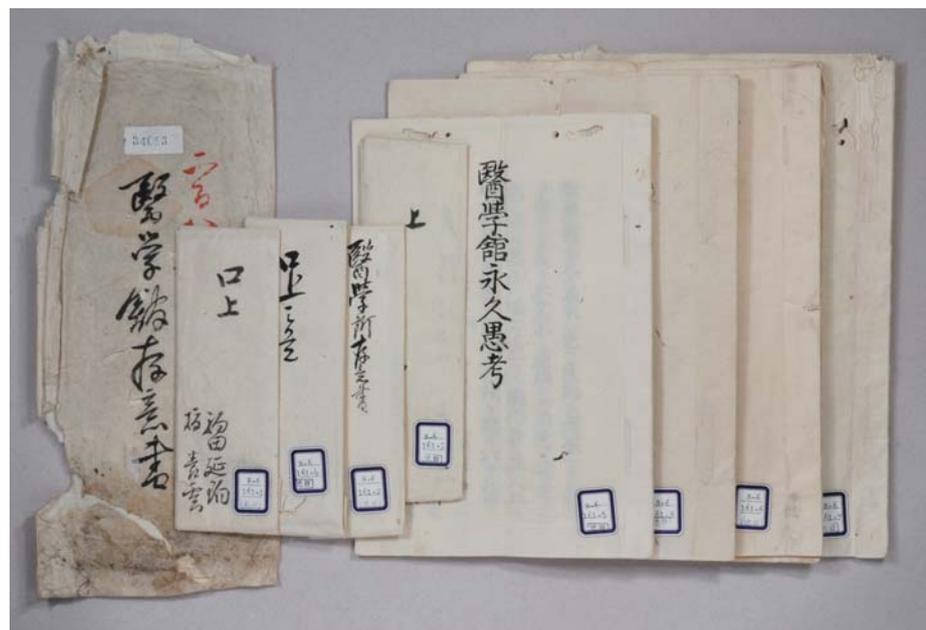
おおさかいしおがたこうあんめしよせらるいっけん
46 大坂医師緒方洪庵被召寄一件
 R6-35 万延元年(1860)閏3月 袋入2冊
 12.2×33.8 cm

1年程前から岡山藩主の池田慶政が掌中痛み、腫れもあるため名声の高い緒方洪庵の治療を受けようと、わざわざ大坂から呼び寄せた経緯を記したもの。洪庵は閏3月25日から4月8日まで岡山に滞在、27・29日の両日にわたって後楽園で診療を行った。4月5日には後楽園で銀子・縮緬・鯛を賜っている。



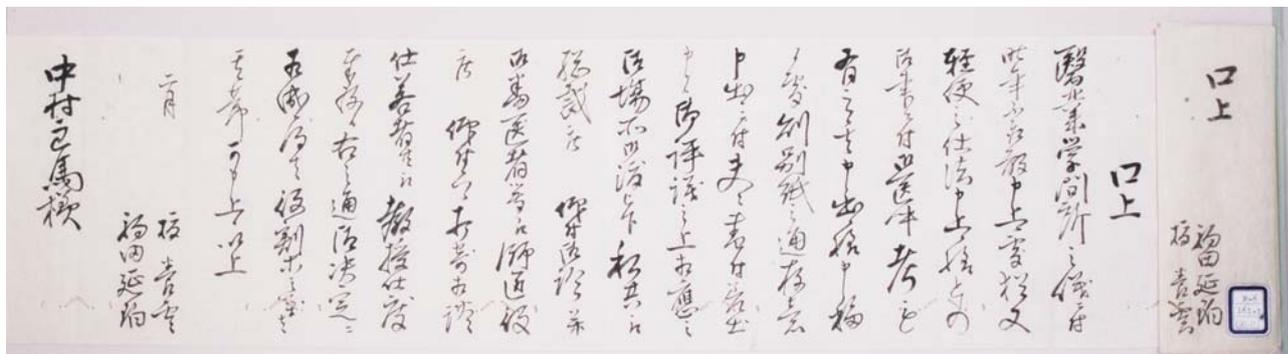
びょうがくつろん
47 「病学通論」 2冊 25.8×18.3cm

緒方洪庵著、嘉永4年(1851)刊。我が国最初の体系的な病理学の書。岡山医学専門学校の蔵書印がある。



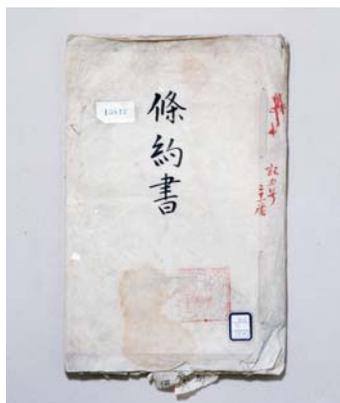
いがくかんぞんいがき
48 医学館存意書
 R6-161-2~8
 袋入3通4冊
 慶応3年(1867)

「医業学問所」取り立てについて藩医たちが作成した意見書。49の口上書とともに藩に提出された。



こまだえんぼく えのきょううんこうじょう
49 駒田延珀・榎養雲口上 R6-161-1 1通 16.0×68.0 cm

2月、中村主馬宛。「医学学問所」の取り立てについて、医者中からの存意書7件を提出するので、評議のうえ相応の場所を渡され、両人に総裁、番医者に師匠役を仰せつけられたいとの口上書。



じょうやくしょ
50 條約書

R6-31 1冊 明治3年(1870)6月13日 28.8×18.5 cm

医学館の設立のため、オランダ医師ロイトルを招請するにあたって取りかわした契約書の案。8か条からなり、初年度の月給は250トルラル(ドル)、ほかに支度料として1か月分の給料を支払うことになっていた。しかし、ロイトルは1年たらずで離任し、廃藩置県のため医学館も廃止となった。

おかやまけんいっかくこうしんきゅうしょうしょ
51,52 岡山県医学校進級証書
 岡山大学医学部所蔵 2枚
 明治13年(1880)7月・12月
 22.2×26.6 22.2×27.3 cm

医学館は岡山県病院および医学教場に引き継がれた後、明治13年(1880)には岡山県医学校となった。場所は天神町、現在のオリент美術館の西にあたる。



いっかくそつぎょうしょう
53 医学卒業証 岡山大学医学部所蔵

1枚 明治19年(1886)7月3日 36.3×48.3 cm

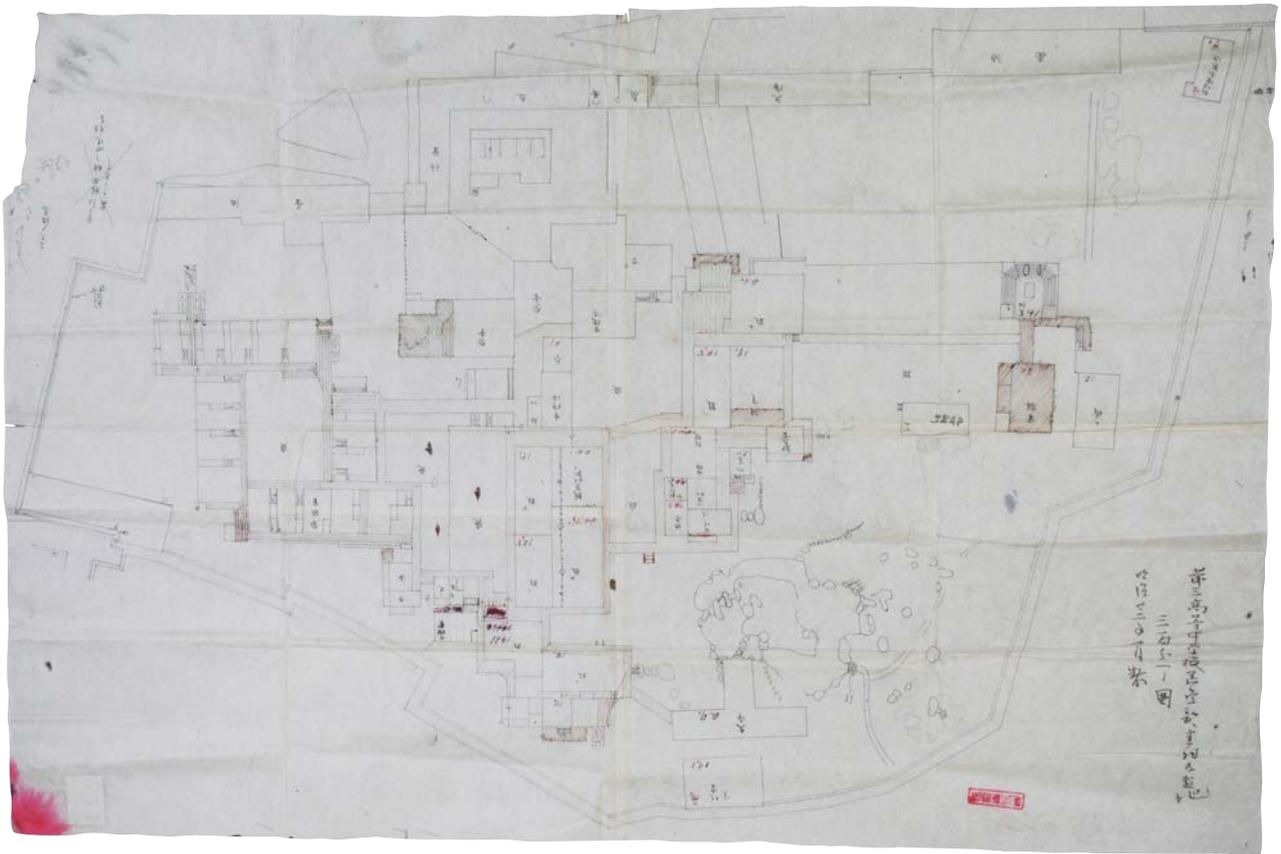
広島県出身の船石保太が岡山県医学校を卒業したことを証したもの。別に同日付で、科目別の得点を書き上げた「卒業試験成績証」も発行されている。



いじゆつかきぎょうめんじょう
54 医術開業免状 岡山大学医学部所蔵

1枚 明治19年(1886)7月28日 36.0×48.0 cm

当時は岡山県医学校を卒業すると自動的に内務大臣から医師免許証が交付された。実際の医師の管理は、内務省衛生局が行った。



だいさんこうとうちゅうがっこういがかぶたてものはいちず

55 第三高等中学校医学部建物配置図 T3-348-11-1 明治22年(1889)1月 1枚 47.0×70.0cm

第三高等中学校医学部は、岡山県医学校を引き継ぐ形で明治21年(1888)4月に開校した。文部省では同年7月に陸軍省から岡山城西の丸の土地1万6615坪を借用、翌22年5月から新校舎の建設に取りかかり、23年7月にほぼ完成した。この図は日付からみて、設計図と考えられる。



しゅうぼうり
56 種痘針 57 ランセット

岡山大学医学部所蔵 2本・3本
幕末～明治

牛痘接種による天然痘の予防法は、オランダ医師によって長崎に伝えられた。備中国賀陽郡久米村(現総社市)の山田成器は、長崎で牛痘法を学んで嘉永2年(1849)に帰郷、村内で種痘を行った。この器具は成器が使用したものという。左2本が種痘針、右3本がランセット(両刃のメス、刃針)である。

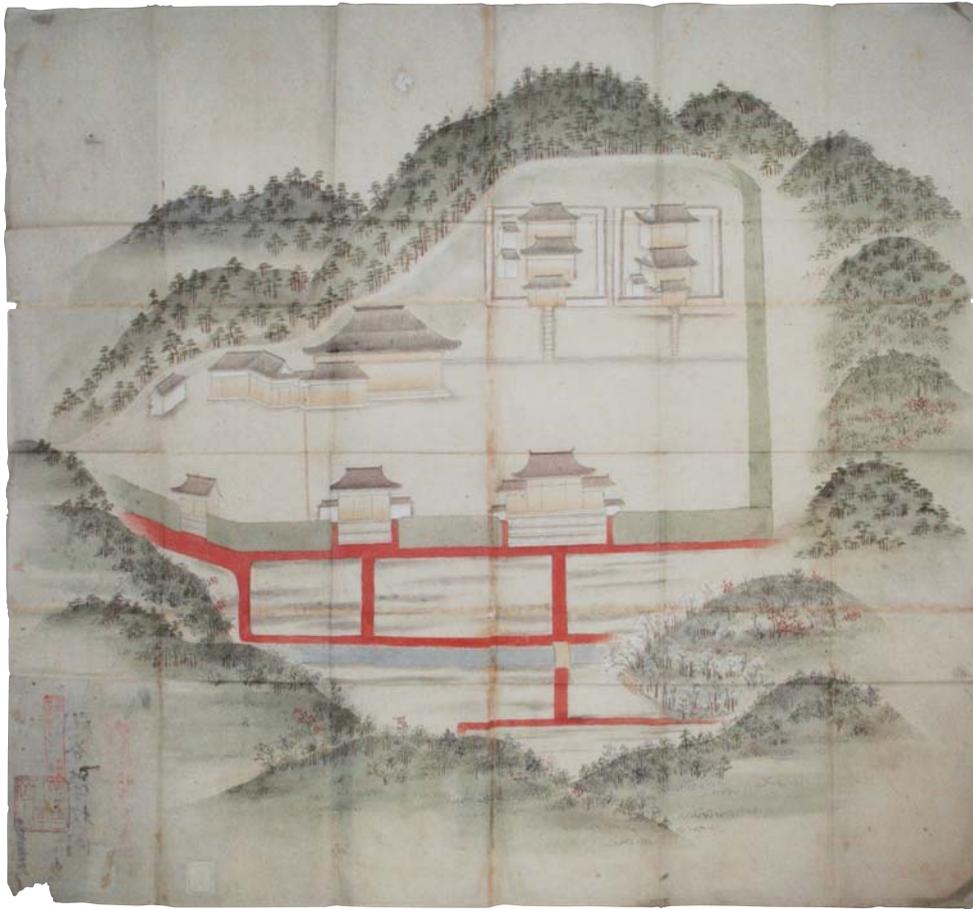
藩学校から岡山大学へ



てっぽうたまぬき
58 鉄砲玉抜

岡山大学医学部所蔵 1本 幕末～明治

西洋医学は元来外科術として受容され、軍用に重宝された。銃創の処置も重要な仕事であった。この資料は山田成器旧蔵のものと言われる。

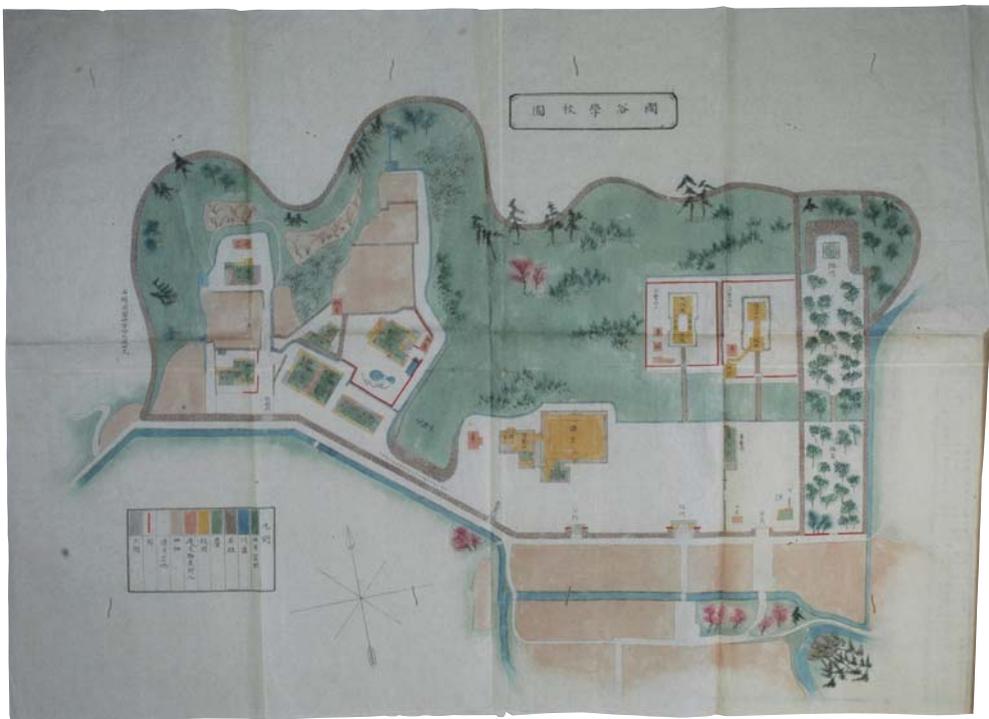


しづたにがっこうず
59 閑谷学校図

R2-46-10
72.3×78.2cm

明治32～34年(1899～1901)の「山林下戻ニ関スル書類証拠物件」に含まれている絵図。

火防山の東側の聖堂・大成殿・芳烈祠の様子を絵画的に描いている。裏書に有吉寛右衛門の名が記されており、寛政年間(1789～1801)のものか。「故学校明治八年三月改」の朱書もあり、藩学校に伝えられたものであることも分かる。



しづたにがっこうず
60 閑谷学校図

R2-41-6
50.9×71.3cm

明治18年(1885)の「閑谷新田村学校山下渡願」一件書類のうち「和気郡閑谷新田村山林関係旧記写」に綴じ込まれている絵図。芳烈祠を閑谷神社と改めた明治8(1875)以降の状況を示しており、学房の建物が縮小されている。

出展資料目録

番号	資料名	員数	年代	法量 (cm)	池田家文庫整理番号・所蔵先
1	花園会約	1冊		26.6×19.4	P1-16
2	池田家履歴略記五・六	1冊		27.4×20.0	A8-24
3	集義和書	11冊	寛文12年(1672)刊	25.5×18.7	121-25
4	大学或問	2冊	天明8年(1788)刊	26.4×18.2	121-34
5	備前国岡山城下図(川東)	1枚	慶安年間(1648-52)	94.7×65.0	T6-8
6	備前国岡山城下図(川西中)	1枚	慶安年間(1648-52)	84.6×102.1	T6-10
7	備前国岡山城下図(川西北)	1枚	慶安年間(1648-52)	79.6×68.6	T6-11
8	岡山内曲輪絵図	1枚	宝永年間(1704~11)	131.8×137.4	T6-20
9	学校御絵図	1枚		187.4×134.6	T11-21
10	国学新図	1枚	幕末~明治	90.3×64.2	T11-28
11	備陽国学記録	2冊		26.9×20.5	R1-1, 2
12	備陽国学記録	1冊	天明8年(1788)	26.9×19.9	R1-27
13	家中諸士家譜五音寄	1冊		26.6×22.0	D3-3035
14	学校積菜御名代勤	1冊	嘉永5年(1852)	7.8×17.6	C5-411-4
15	告示	1通	嘉永5年(1852)	18.0×35.3	C5-411-5
16	学校積菜之図	1枚	嘉永5年(1852)	81.5×39.6	C5-411-9
17	御入之時中室講堂之図	1枚		95.2×87.2	T11-129-6
18	孝経	3冊		27.4×19.4	経53
19	四書章句集註	3冊		31.8×21.3	経91
20	小学	3冊		25.0×17.9	子10
21	学校武芸之師	1通	寛文7年(1667)~元禄5年(1692)	17.1×122.8	R1-85
22	学校御引立之説	1通	元治元年(1864)	18.2×58.8	S3-182-35
23	祭礼節解	2冊	寛文7年(1667)刊	27.2×19.4	125-6
24	備陽国志	3冊	元文4年(1739)	27.2×19.4	217-10~13
25	備陽善人記	2冊		27.6×19.4	L2-11, 12
26	近藤六之丞奉公書	1冊		27.4×20.6	D3-1100
27	備藩集義録	4冊		27.4×19.4	281-31
28	率章録	1冊		27.2×19.2	P28-94
29	木札	8点	19世紀前半		岡山市教育委員会
30	備陽国史類編	1冊	寛文6年(1666)	27.6×20.4	A1-46
31	備陽郡中手習所并小子之記	1冊	寛文11年(1671)	27.9×20.2	R3-1
32	旧岡山藩閑谷学校之図	1枚	明治	52.4×78.0	T11-29
33	岡山県下備前国和気郡閑谷新田村官林実地取調測量絵図	1枚	明治	135.6×116.8	T2-70-2
34	岡山県備前国和気郡伊里村大字閑谷新田字学校山地名絵図	1枚	明治	55.4×40.0	R2-44
35	備前国和気郡井田之図	1枚		93.8×167.5	T7-144
36	閑校開発略記	1冊	寛政7年(1795)	22.0×16.2	R2-13
37	津田重二郎奉公書	1冊		27.6×20.6	D3-1631
38	定	1点	延宝2年(1674)	47.2×81.8	池田家文庫
39	閑谷学問所料附託書付	1通	延宝2年(1674)	47.0×66.2	R2-2
40	閑谷学校教授姓名	1冊	江戸後期~明治	23.4×16.4	R2-16
41	備陽国学記録	1冊	天明9年(1789)	26.9×19.8	R1-28
42	芳烈祠之儀	2冊	江戸中期	24.6×16.5	R2-53, 55
43	積菜之儀	2冊	江戸中期	24.0×16.1	R2-56
44	元旦之儀	1冊	江戸中期	24.0×16.1	R2-54
45	読初之儀	1冊	江戸中期	24.0×16.1	R2-57
46	大坂医師緒方洪庵被召寄一件	2冊	万延元年(1860)	12.2×33.8	R6-35
47	病学通論	2冊	嘉永4年(1851)刊	25.8×18.3	岡山大学医学部
48	医学館存意書	3通4冊	慶応3年(1867)		R6-161
49	駒田延珀・榎養雲口上	1通	慶応3年(1867)	16.0×68.0	R6-161-1
50	條約書	1冊	明治3年6月	28.8×18.5	R6-31
51	岡山県医学校進級証書	1枚	明治13年(1880)7月	22.2×26.6	岡山大学医学部
52	岡山県医学校進級証書	1枚	明治13年(1880)12月	22.2×27.3	岡山大学医学部
53	医学卒業証	1枚	明治19年(1886)	36.3×48.3	岡山大学医学部
54	医術開業免状	1枚	明治19年(1886)	36.5×48.0	岡山大学医学部
55	第三高等学校医学部建物配置図	1枚	明治22年(1889)	47.0×70.0	T3-348-11-1
56	種痘針	2本	幕末~明治		岡山大学医学部
57	ランセット	3本	幕末~明治		岡山大学医学部
58	鉄砲の弾抜き	1本	幕末~明治	4.8×13.5×4.7	岡山大学医学部
参考出展	閑谷新田図(複製)	1枚		441.4×277.8	T2-71
参考出展	旧岡山藩学跡出土資料(硯、灯明皿、油壺、食器類、白木箸等)	一括	18世紀から19世紀前半		岡山市教育委員会

池田家文庫絵図展・記念講演会開催記録

池田家文庫絵図展

年度	展示テーマ	会 期
平 9	絵図にみる岡山城	1997年10月24日～11月2日
平 10	岡山藩と海の道	1998年10月23日～11月1日
平 11	後楽園と岡山藩	1999年10月23日～11月1日
平 12	備前慶長国絵図のふしぎ	2000年10月23日～11月1日
平 13	岡山藩江戸藩邸ものがたり	2001年10月23日～11月1日
平 14	開けゆく岡山平野 岡山藩の新田開発(1)	2002年10月23日～11月1日
平 15	新田開発をめぐる争い 岡山藩の新田開発(2)	2003年10月23日～11月1日
平 16	岡山城下町をあるく	2004年10月23日～11月1日
平 17	江戸時代の岡山 池田家文庫絵図名品展	2005年9月29日～10月10日
平 18	戦さと城	2006年10月26日～11月12日
平 19	陸の道	2007年11月16日～12月2日
平 20	日本と「異国」	2008年11月1日～11月16日
平 21	「岡山藩の教育」	2009年9月29日～10月18日

記念講演会

年度	記念講演会演題	記念講演会講師	期 日
平 9	絵図を読む	岡山大学文学部 教授 倉地克直	1997年10月25日
平 10	瀬戸内の交流	岡山県総合文化センター 総括学芸員 竹林榮一	1998年10月23日
平 11	日本庭園と後楽園	岡山大学農学部 教授 千葉喬三	1999年10月23日
平 12	江戸幕府の国絵図事業	東 亜 大 学 教授 川村博忠	2000年10月28日
平 13	岡山藩の江戸藩邸	東京大学史料編纂所 教授 宮崎勝美	2001年10月23日
平 14	津田永忠と岡山藩の土木事業	岡山大学環境理工学部 教授 名合宏之	2002年10月26日
平 15	近世の境界論争と裁判	東京大学史料編纂所 助教授 杉本史子	2003年10月23日
平 16	岡山城下町を掘る ～絵図と遺構～	岡山市デジタルミュージアム 開設事務所 乗岡 実	2004年10月23日
平 17	池田家文庫絵図の見方	岡山大学文学部 教授 倉地克直	2005年10月 1日
平 18	「長久手合戦図屏風」の世界	茨城大学人文学部 教授 高橋 修	2006年10月26日
平 19	江戸時代の陸上交通	岡山県立記録資料館 館長 在間宣久	2007年11月23日
平 20	「鎖国」の中の日本と朝鮮	名古屋大学文学部 教授 池内 敏	2008年11月 1日
平 21	儒学教育と武士の人間形成	京都大学教育学研究科 教授 辻本雅史	2009年10月 3日

年度は開催年度 平成16年度までは「池田家文庫等貴重資料展」、平成17年度から「池田家文庫絵図展」
平成9年度～平成16年度は岡山大学附属図書館、平成17年度からは岡山市デジタルミュージアムで開催

謝 辞

本展の開催にあたり、下記の機関・関係者の皆様に多大なご協力を賜りました。
ここに記し、感謝の意を表します。(敬称略、順不同)

岡山県立博物館
岡山大学医学部
浅野 慎太郎
木下 浩
中山 沃
酒井 シヅ



岡山大学創立60周年記念事業

企画展 池田家文庫絵図展

岡山藩の教育

発行日：2009年9月29日

主 催：岡山市デジタルミュージアム・岡山大学附属図書館

発 行：岡山大学附属図書館

〒700-8530 岡山市北区津島中 3-1-1

TEL 086-251-7322 FAX 086-254-6152

岡山市デジタルミュージアム

〒700-0024 岡山市北区駅元町 15-1

TEL 086-898-3000

印 刷：株式会社 プリント・ケイ

〒700-0971 岡山市北区野田 4 丁目 11-1

TEL 086-246-5311



岡山大学附属図書館



岡山市デジタルミュージアム

OKAYAMA
DIGITAL MUSEUM